トキ

Nipponia nippon (Temminck)

コウノトリ目トキ科

石川県カテゴリー	絶滅
国カテゴリー	野生絶滅

選定理由　1970年1月8日、穴水町で最後の1羽が人工増殖のため捕獲され、県内では絶滅となった。

形　態　全長約77cm。大型の水鳥で、雌雄同色。全身は白っぽいが翼や尾羽は淡いピンク色。顔と足は赤い。嘴は湾曲し、黒く長い。後頭部は冠羽状となる。

国内分布　明治以前は全国に留鳥として普通だったが、明治期に激減し、1981年佐渡に残った最後の5羽が人工繁殖のため捕獲され、野生絶滅となった。

県内分布　1950年代まで輪島市洲衛や穴水町七海付近の山林でごく少数が繁殖していたが、徐々に数を減らし、1961年が最後の繁殖成功となった。季節的な移動が見られ、初夏から夏には眉丈山付近に移動し、秋から春にかけては輪島市、穴水町へもどる群が見られた。また積雪の多い時には餌場を求めて穴水湾沿岸に姿をあらわしていたようである。

生　態　泥や水の中の小動物を食べたが、草地や田畑でわら束をひっくり返して昆虫類を食べることもあった。大木の樹上を塒にしていた。樹上に枝を組んで営巣。繁殖期以外は群を作ることが多かった。

生息地の条件　周囲に餌場となる湿地を持つ丘陵地。

生存の危機　銃猟による捕獲、生息地の開発、餌の農薬汚染。（A）

特記事項　国際保護鳥、国内希少野生動植物種、国指定特別天然記念物。

写真提供者：石川県立歴史博物館

分布図はありません。

県内の分布

ライチョウ

Lagopus mutus (Montin)

キジ目ライチョウ科

石川県カテゴリー	絶滅
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由　1936年以降の確実な記録はなく、1938年以降信頼できる目撃例もない。1940年代を境に絶滅したと考えられている。

形　　態　全長約37㎝。雄は夏羽では頭から首、背にかけて黒褐色で他は白色、目の上には赤い肉冠ができる。雌では黒褐色に黄色の斑が細かく混じる。冬羽では雌雄共に全身ほぼ白色となる。

国内分布　主な生息地は北アルプス、中央アルプス、南アルプス、妙高山塊など。駒ヶ岳、八ヶ岳、蓼科山などでは絶滅したと考えられている。

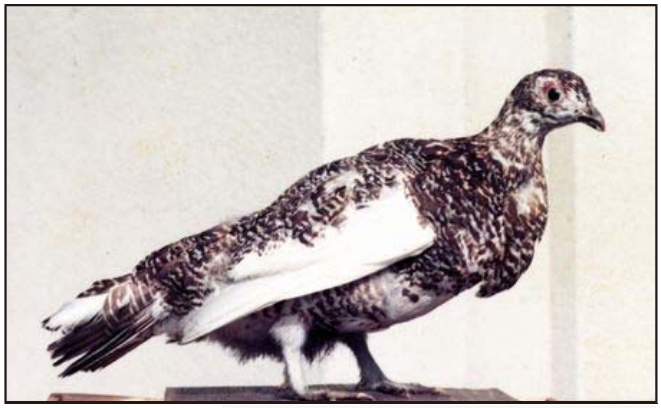
県内分布　白山の高山帯に分布していたが絶滅。

生　　態　高山のハイマツ群落に繁殖する。ハイマツの根元などに営巣し、1腹5～6卵を生む。繁殖期は5月中旬から7月上旬。主に植物質を食べ、若芽、果実、若根、種子などの他、昆虫類も食べる。

生息地の条件　おおむね標高2400m以上の高山帯で、ハイマツ群落があること。

生存の危機　登山者、観光客の増加によって起こる高山帯の環境汚染（ゴミ、糞尿）の結果、病気、寄生虫、天敵などの増加、また登山道の開発によるハイマツ群落の分断、生息地の減少。（A, C）

特記事項　国内希少野生動植物種、国指定特別天然記念物。



写真提供者：石川県立自然史資料館

分布図はありません。

県内の分布

ヒメクロウミツバメ

Oceanodroma monorhis (Swinhoe)

ミズナギドリ目ウミツバメ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由　県内でただ1箇所、輪島市の七ツ島大島で繁殖していたが、1979年7月以来確実な記録はなく、目撃例も1982年5月を最後に途絶えている。以後1983年、1991年、1998年、2008年の上陸調査でも生息は確認できず、絶滅が心配されている。

形　態　全長約17～20cm。翼開長35～40cm。全身くすんだ黒褐色。

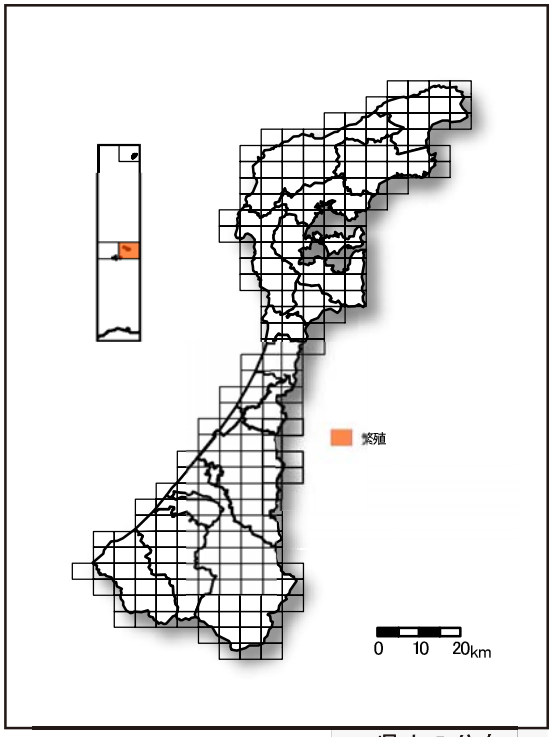
国内分布　日本近海の離島で繁殖。冬は南シナ海からインド洋に渡り越冬する。主な繁殖地は青森県尻屋岬、岩手県陸中海岸、京都府沓島、島根県隠岐、福岡県沖ノ島、伊豆諸島八丈小島など。

県内分布　石川県では夏鳥。輪島市沖の七ツ島大島で繁殖し周辺海域に生息していた。

生　態　沖合にすむ海鳥。繁殖期は5～9月、地面に巣穴を掘り1卵を生む。集団繁殖し、数十から数千羽のコロニーが知られている。雌雄交代で抱卵し、つがいの一方は日中、海上ですごし夜間巣にもどる。

生息地の条件　捕食者となるヘビ、ネズミなどのいない離島。

生存の危機　繁殖地へのネズミなどの侵入が考えられるが、詳細はよくわかっていない。（C）



県内の分布

サンカノゴイ

Botaurus stellaris (Linnaeus)

コウノトリ目サギ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類

選定理由　個体数が少なく、越冬地である広いヨシ原が減少している。

形　態　全長約70cm。雌雄同色。全身淡黄褐色と暗褐色のまだら模様。上面は黄褐色の地に暗褐色の縦斑とこまかい虫食い状斑があり、下面は黄褐色に暗褐色の縦斑がある。頭頂および顎線が暗褐色。嘴は黄緑色で嘴峰は暗褐色。足は淡緑色。虹彩は黄色または橙黄色。

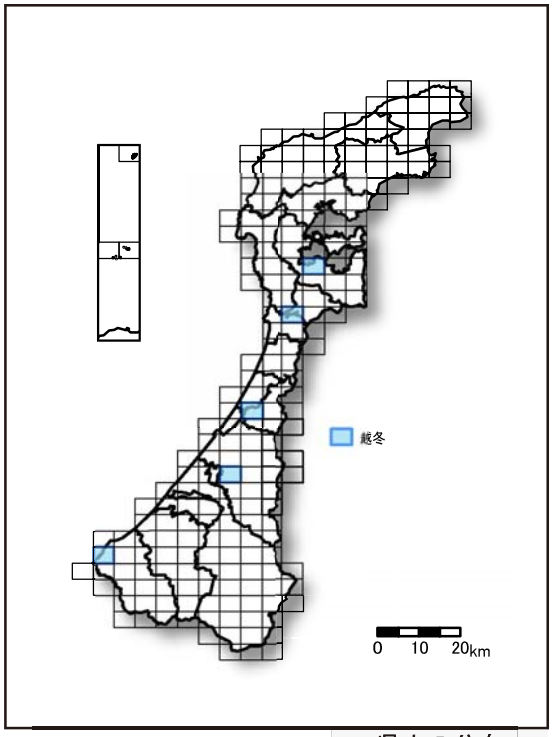
国内分布　北海道では夏鳥または留鳥。本州以南では留鳥または冬鳥。

県内分布　冬鳥として大きなヨシ原に渡来する。河北潟では毎年のように記録があるが、数羽である。他には片野鴨池、邑知潟などで記録がある。

生　態　低地の水辺のヨシ原など、広大な湿性草原にすむ。淡黄色に黒と暗褐色の細かい模様が全身にあり、その色彩は枯れたヨシによく溶け込む。密な植生に隠れ、基本的に単独で生活しているので観察が難しい。魚類、両生類、昆虫を主に食べ、小鳥、小動物、甲殻類なども食べる。

生息地の条件　外敵が近づけないような広いヨシ原を必要とする。

生存の危機　越冬地であるヨシ原の開発、減少。釣り人の影響も大きい。（A）



県内の分布

ヨシゴイ

Ixobrychus sinensis (Gmelin)

コウノトリ目サギ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由　生息地であるヨシ原が減少し、個体数の減少が著しい。

形　態　全長約37cm。全身淡褐色の小型のサギ。雄成鳥では頭頂がスレート色で、前頸には淡黄褐色の縦斑があるが不明瞭。翼上面には淡褐色の雨覆と黒色の風切のコントラストが著しい。雌成鳥は頭頂のスレート色の範囲が雄に比べて狭く、背の羽縁が淡色の縦斑をなし、前頸に明瞭な褐色の縦斑が5本程度ある。雌雄とも虹彩は黄色。眼先の裸出部から嘴は黄色。足は黄色。

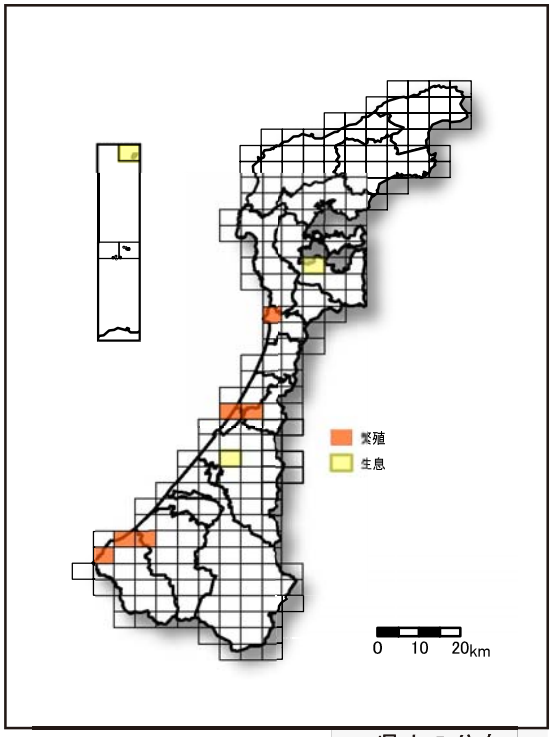
国内分布　夏鳥として全国に渡来する。北海道では少ない。西南日本では越冬例がある。

県内分布　夏鳥として渡来し、河北潟などのヨシ原で繁殖している。

生　態　ヨシ原、水田などに身を潜め、魚、カエル、エビ、ザリガニ、昆虫、クモなどを捕食する。敵が近づくとこれに正対し、嘴を天にむけ、頸を上に伸ばして静止する動作を見せる。5～6月頃、ヨシ原やメダケなどの藪に営巣する。

生息地の条件　外敵が近づけないようなある程度広いヨシ原を必要とする。

生存の危機　生息地であるヨシ原の減少。また、釣り人などの影響も大きい。しかしそれほど環境が悪化していない場所でも減少しており、国外の越冬地での環境悪化、乱獲などが懸念されている。（A, D）



県内の分布

ミゾゴイ

Gorsachius goisagi (Temminck)

コウノトリ目サギ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類

選定理由　近年、全国的に個体数の減少と生息環境の破壊が叫ばれている。

形　　態　全長約49cm。雌雄同色。全体が栗色で、頭頂は濃い栗色。背中は暗栗褐色。体の下面はバフ色で中央部に栗色の縦縞があり、喉にも細く黒い縦線がある。

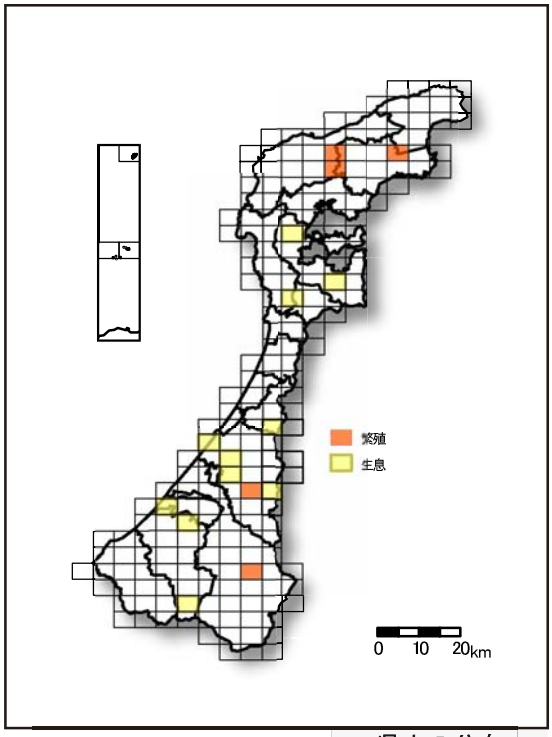
国内分布　本州、四国、九州、伊豆諸島の森林で繁殖。越冬地はフィリピンであるが、西南日本、薩南諸島などでも少数が残る。

県内分布　夏鳥として低山帯の森林に渡来する。夜行性のため元々繁殖の情報は少なかった。近年の調査で情報は少しずつ集まりつつある。

生　　態　平地から低山帯の暗い林に好んで生息し、繁殖する。谷や沢筋、湖畔などでサワガニやミミズなどを捕食する。繁殖期は5～7月で、地上から数mにある横枝の又になった部分に、枯れ枝でキジバトの巣に似た皿形の巣を作り、3～4個の汚白色無斑の卵を産む。抱卵期間20～27日で雛がかえり、その後約35日親に育てられて巣立ちをする。

生息地の条件　里山の暗い林で、餌となるサワガニやミミズなどが豊富な中山間地の水田。

生存の危機　里山の開発と、中山間地の水田の耕作放棄による採食環境の減少。（A, B）



県内の分布

クロツラヘラサギ

Platalea minor Temminck & Schlegel

コウノトリ目トキ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠA類

選定理由　世界的に個体数が少なく、極東のみに生息する。警戒心が強く、生息環境もヒトの活動域と重複している。

形　態　全長雄81cm、雌73cm。体色は白。ヘラサギによく似るが、嘴から目先まで黒色。嘴はヘラサギに比べて少し短い。繁殖期には頭部に羽冠が現れ、胸部は橙色に色づき美しくなる。

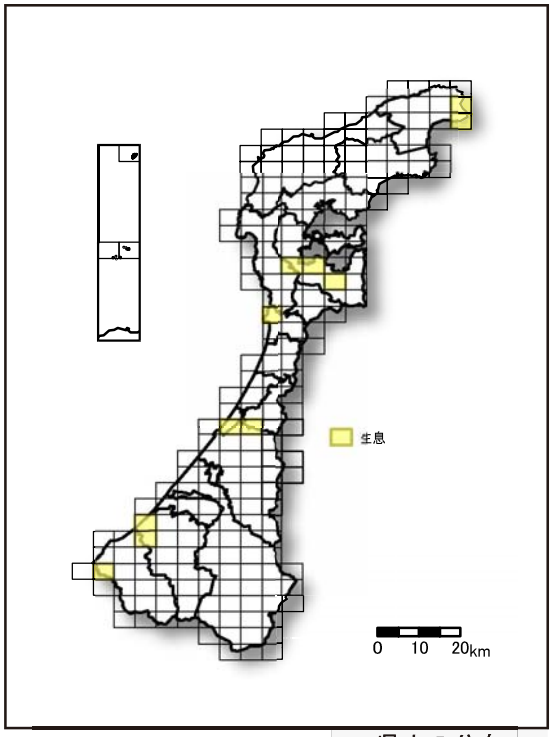
国内分布　数の少ない冬鳥として少数が越冬する。

県内分布　七尾西湾、河北潟、柴山潟などにしばしば飛来する。長期間滞在することも多く、その場合は春に渡来し夏まで滞在することが多い。七尾西湾では1994年、1995年に繁殖行動が見られた。

生　態　湖沼、湿地、水田などに生息。嘴を半開きにして水の中に入れ、頭を横に振りながら小走りに前進し、魚、甲殻類、軟体動物などを食べる。警戒心が強く、なかなか人を寄せつけない。

生息地の条件　人が近づけないような広い湿地があり、魚などの餌が豊富なこと。

生存の危機　生息できる干潟の開発。水田の乾田化や排水路の整備による餌の減少。（A）



県内の分布

コクガン

Branta bernicla (Linnaeus)

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由　個体数が少なく、越冬地である内湾、浅海域も限られている。

形　　態　全長56～61cm。雌雄同色。全体的に黒い。黒色の頸に黒色の混じった白色の三日月斑があり、背と腹は黒褐色。脇腹は黒褐色と白色の横縞がある。下腹と下尾筒は白い。嘴と足は黒色。

国内分布　冬鳥として主に東北、北海道に渡来する。アマモ場のある浅海、内湾に生息する。

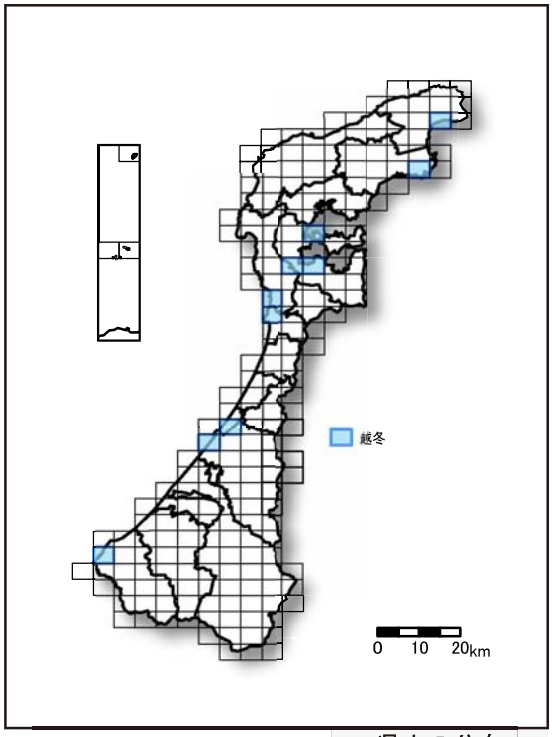
県内分布　過去、七尾西湾で毎年のように越冬していたが、最近は渡来が減っている。現在は金沢市から志賀町にかけての海岸に少数が渡来しており、他に片野鴨池、犀川下流、珠洲市などでも記録がある。

生　　態　日中は岸から遠く離れた海上などで休息していることが多く、干潮時や夜間に岸近くで採餌する。主に植物を食べ、岩礁に付着する海藻類を好んで食べる。特にアマモを好む。冬期は群で生活することが多い。

生息地の条件　波静かな内湾で、岩礁地帯があり、海藻類を落ち着いて採ることができるような場所を必要とする。特にアマモの藻場が残されていることが重要である。

生存の危機　越冬地の内湾、海岸における漁業など人間活動。非常に警戒心が強く、ハンターによる影響も大きい。(A)

特記事項　国指定天然記念物。



県内の分布

クマタカ

Spizaetus nipalensis (Hodgson)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類

選定理由
小型から中型の森林性の鳥獣の捕食者として、丘陵帯から亜高山帯までの森林生態系の頂点に位置する大型のタカで、近年繁殖率の低下が心配されている。

形　態
全長約75cm。翼開長約1.5m。雄よりも雌が大きい。トビよりも大きいタカで、幅広く短い翼をもつ。全体に暗褐色で下面は淡く、胸には縦斑、腹には横斑がある。頭部は黒色で、後頭部の羽毛は冠羽状になる。尾には幅広い黒帯が数本ある。飛んでいるときに下から見ると、翼と尾の鷹斑がよく目立つ。幼鳥は全体に白っぽい。

国内分布
北海道、本州、四国、九州の山地で繁殖し、周年同一地域に生息する。佐渡、隠岐、対馬でも記録がある。

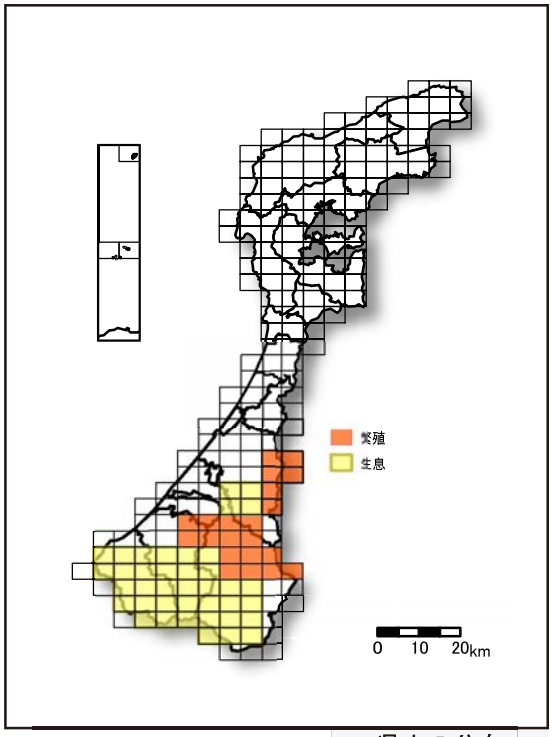
県内分布
医王山以南の山地に広く生息しているが、数は多くない。また能登半島でも目撃例がある。

生　態
丘陵帯から亜高山帯の森林に生息し、アカマツに営巣する例が多い。繁殖活動に入るのは早く、1月中旬には巣作りを開始し、多くは3月に産卵する。一腹卵数はふつう1個で、抱卵日数は約45日、孵化から約70日後の7～8月に巣立ちする。キジ、ヤマドリなどの鳥類やノウサギを主食にする。

生息地の条件
低山から亜高山帯の広葉樹と針葉樹の混交林や針葉樹林に営巣する。1ペアのクマタカが生息するためには4km四方の土地が必要といわれる。山間の伐採地、まばらな林間、開けた谷、林道などで狩りをするので、そのような餌場の存在も条件となる。山間部での人間活動による悪影響も受けやすい。

生存の危機
山間部での開発行為の影響を受けやすく、森林伐採、林道工事、砂防工事などの影響が心配される。(A)

特記事項
国内希少野生動植物種。



県内の分布

イヌワシ

Aquila chrysaetos (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類

選定理由
中型の鳥獣の捕食者として、山地帯から亜高山帯までの山地生態系の頂点に位置する大型の肉食鳥で、もともと個体数が少ないうえに、人間活動により生息地が狭められつつある。

形　態
全長約85cm。翼開長約2m。雄よりも雌が大きい。全体に暗褐色で後頭部は金褐色をおびている。幼鳥は成鳥よりも黒っぽく、翼と尾羽の基部に明瞭な白斑がある。嘴は黒色で基部は黄色い。足指は黄色である。

国内分布
北海道、本州、四国、九州の低山から高山までに周年生息する。本州で繁殖が確認されているほか、徳島県、大分県、熊本県でも生息ないし営巣（繁殖不成功）が確認されている。佐渡、隠岐、対馬でも記録がある。国内に約300羽が生息すると推定されている。

県内分布
白山自然保護センター（1985）によれば、医王山以南の白山周辺、大日山系などに約20つがい、40～50羽の生息を推定している。

生　態
深い谷にある切り立った岸壁の岩棚に営巣するのが普通である。繁殖活動に入るのは早く、12月には巣作りが始まり、1月には交尾がみられ、1～2月に産卵する。一腹卵数は普通2個で、抱卵日数は約45日で3～4月に孵化し、孵化から70～80日後の5～6月に巣立ちする。行動圏は20～60km²といわれる。ヤマドリ、ノウサギ、ヘビ類を主食にする。

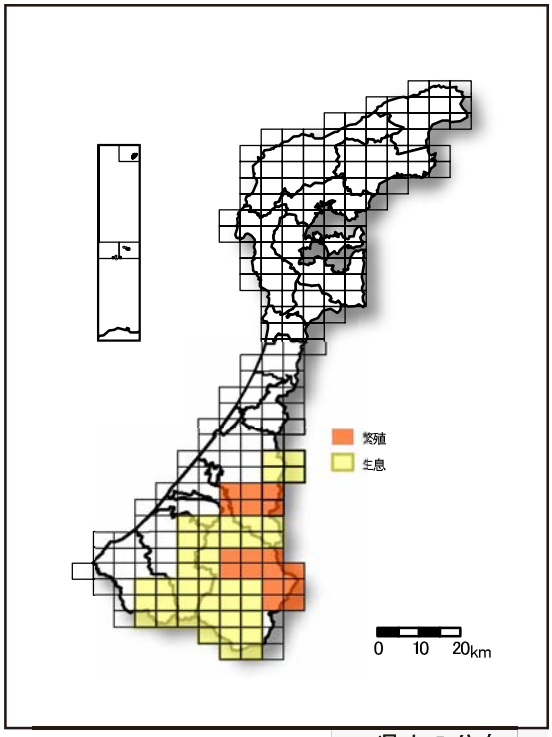
生息地の条件
豊富な餌のある自然環境で、狩りのしやすい開けた場所があること。外敵の近づけない急峻な場所で巣を造れる適当な岩場や大木があること。上昇気流が起こるなど飛行に適する風が吹く場所があること。山間部での人間活動による悪影響も受けやすく、人為的影響が少ないこと。

生存の危機
個体数が非常に少ないので、森林伐採、砂防工事など、営巣地の近くで人為的行為が行われると、営巣放棄につながりやすい。また、密猟の危機に常にさらされている。 (A)

特記事項
国内希少野生動植物種、国指定天然記念物、石川県鳥。

参考文献

石川県白山自然保護センター 1985. 県鳥イヌワシ保護調査報告書
石川県白山自然保護センター 1983. イヌワシの生態



県内の分布

鳥類

チュウヒ

Circus spilonotus Kaup

タカ目タカ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類

選定理由
海岸、河川、湖沼などの周辺にあるヨシ原を中心とした湿原生態系の頂点に位置するタカで、湿原の埋め立てや乾燥により、生息、営巣環境が悪化しており、繁殖個体数が減少している。

形　態
全長約55cm。翼開長約1.3m。雄よりも雌が大きい。トビよりもやや小さく細身のタカで、翼と尾と足が長い。色彩パターンには変化が多い。雄は頭部が灰色で淡褐色の縦斑があるものと、黒色縦斑が密にあり一見黒く見えるものがある。雌は全体に褐色をしている。

国内分布
北海道、東北地方（青森県、秋田県）、中部地方（石川県、富山県、愛知県、三重県）、近畿地方（滋賀県）の湖沼や海岸の干拓地のヨシ原で繁殖しており、関東地方（茨城県、栃木県、千葉県）でも繁殖の可能性がある。冬期は大陸から冬鳥として渡来する個体が多数あり、全国のヨシ原で観察される。

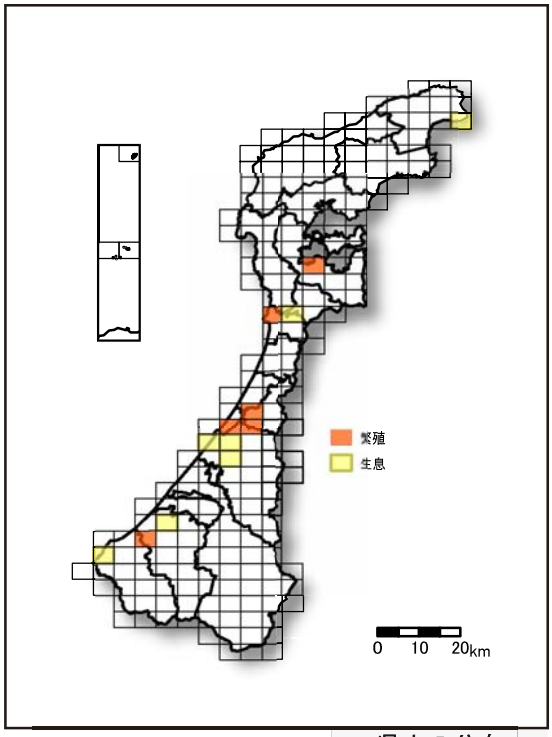
県内分布
柴山潟、河北潟、邑知潟、七尾西湾などで少数が繁殖している。越冬期には他地域から冬鳥として渡来するものがあり個体数が増え、県内各地の海岸や湖沼のヨシ原でも姿が見られる。

生　態
巣は水に近い比較的乾燥したヨシ原や草原の地上にヨシの枯れ茎を積み上げてつくる。産卵は4月下旬頃で、一腹卵数は普通5～6個、抱卵日数は35日前後、孵化後約35日で巣立ちする。広いヨシ原の上をゆっくりとした羽ばたきと滑空を交互にして低く飛び、獲物を見つけるとすばやく下りて捕らえる。餌はネズミ類やカエルなどである。

生息地の条件
繁殖するためには、営巣場所および餌場として広いヨシ原が必要である。また、巣を地上につくるので外敵に襲われやすく、人間活動にも影響を受けやすい。

生存の危機
特に河北潟での遊休農地の整理や乾燥化によるヨシ原の減少で、繁殖できる環境が年々減少している。(A)

特記事項
石川県希少野生動植物種（2006年）。



県内の分布

ヒクイナ

Porzana fusca (Linnaeus)

ツル目クイナ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由
湿地や水田に夏鳥として渡来して繁殖する鳥であるが、近年の湿地の減少や後背地の自然性の減少などにより、生息個体数が著しく減少している。

形　態
中型のクイナで、全長22cm、翼長11cm、体重60～100g。首の後から体上面は暗緑褐色ででて頭部、首、胸、上腹は赤茶色、脇から下尾筒暗褐色で白い横縞がある。嘴は緑褐色で足は赤色。虹彩は赤色。幼鳥は成鳥より赤みが淡い。

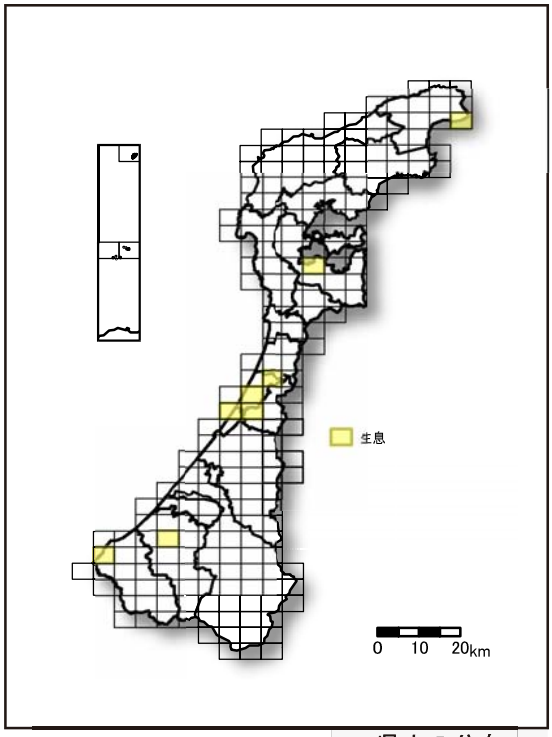
国内分布
北海道から九州で夏鳥として繁殖し、九州などでは越冬するものもいる。

県内分布
夏鳥として渡来し、大聖寺川下流、片野鴨池、柴山潟、手取川、犀川下流、河北潟、邑知潟、七尾西湾などで繁殖例や観察例がある。渡りの時期には舳倉島でも観察されている。奥能登でも生息すると推測されるが、詳細は不明である。

生　態
平地や低山の水田や湿地に生息し、イネや草の中に巣をつくる。一腹卵数4～9個で、約20日で孵化する。餌は水生昆虫、貝、小魚、草の種子などである。夜間に「コッコッコッ」と次第にテンポのはやくなる連続した声で鳴き、「クイナのたたく声」とよばれている。

生息地の条件
水生昆虫や小魚などの餌が豊富にある湿地や水田に生息する。

生存の危機
近年の水田環境の変化で生息、繁殖に適した環境が減少している。環境適応性が極めて低く、排水溝のコンクリート化などによる水田の乾田化の影響が指摘されている。（A, B）



県内の分布

ヘラシギ

Eurynorhynchus pygmeus (Linnaeus)

チドリ目シギ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠA類

選定理由　世界的にも数が少ない上、県内でも秋の渡りの時期に散発的に渡来するのみ、数も1,2羽とごく少ない。

形　　態　全長14.5cm、雌雄同色。トウネンとほぼ同じ大きさ。冬羽では上面は灰色、下面は白。夏羽では東部から胸までが赤褐色になる。クチバシの先がヘラ状になっているのが特徴。

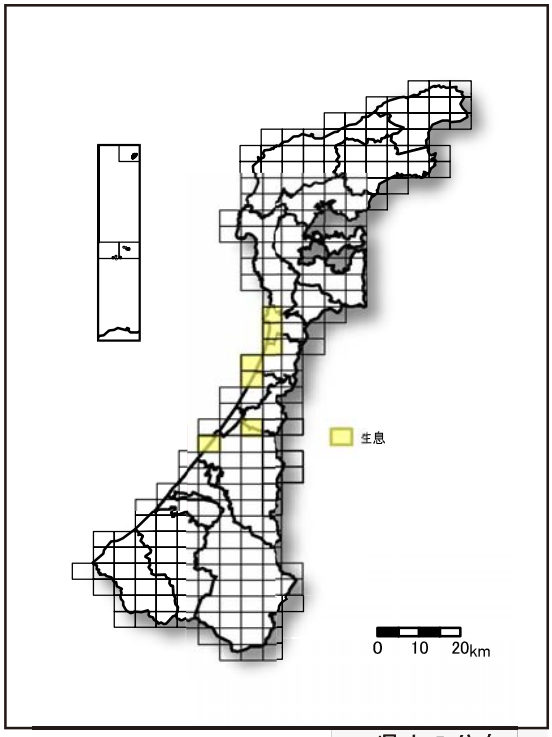
国内分布　日本では数のすくない旅鳥。主に秋に砂浜海岸や干潟に渡来する。

県内分布　金沢から羽咋市までの砂浜海岸で秋、散発的に記録がある。トウネンの群れの中で発見されることが多く、毎年ごく少数が渡来しているものの、群れの中で識別が困難なことから記録され難いものと思われる。

生　　態　主に秋、砂浜海岸に渡来し、波打ち際で頭を左右に振りながら採食する。トウネンの群れに混じり、ともに行動することが多い。

生息地の条件　広い砂浜海岸や砂質の干潟。

生存の危機　侵食による砂浜海岸の消滅、漂着ゴミに集まるカラスなどの害敵。（A, D）



県内の分布

コアジサシ

Sterna albifrons Pallas

チドリ目カモメ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由　県内の安定した繁殖地は1箇所のみ。

形　態　全長約28cm。翼開長50～55cm。夏羽では頭部、過眼線が黒く、背，翼上面は青灰色。尾と下面は白色。嘴は黄色。足はオレンジ色。

国内分布　本州以南の海岸、河川、湖沼に夏鳥として渡来、集団でコロニーを作って繁殖する。

県内分布　かつては金沢港、大野川周辺、河北潟にも繁殖地があったが消滅。現在は手取川のみとなっている。渡り途中のものは県内の河川、湖沼、内湾などで観察できる。

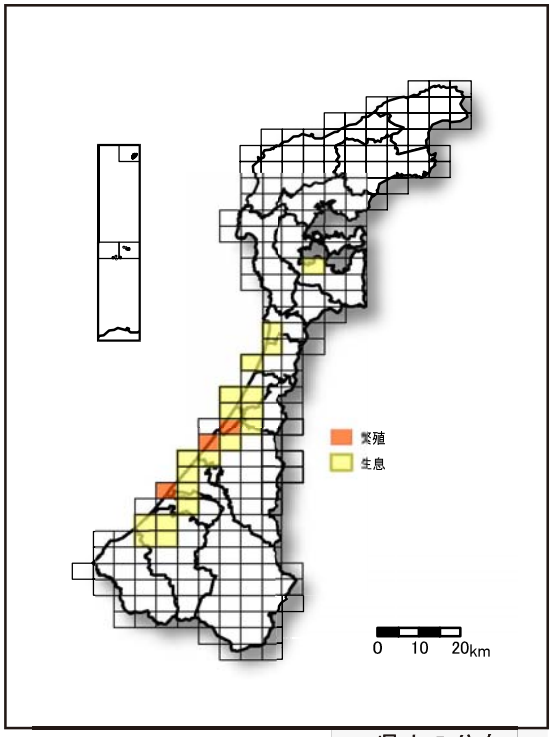
生　態　4月中旬頃、日本に渡来する夏鳥。沿岸や河川、湖沼で小魚を捕る。県内での繁殖期は5～7月、河川の中州や埋立地などに集団で繁殖し、地上に浅いくぼみを掘って2～3卵を産む。抱卵期間、育雛期間はともに約3週間。

生息地の条件　砂浜海岸、河川の中州、河原、埋立地などの広い砂れき地。

生存の危機　四輪駆動車やオートバイなどによる繁殖地の攪乱、釣り人等による巣卵の破壊、カラス、チョウゲンボウなどによる捕食。（A，C）

特記事項　石川県希少野生動植物種（2007年）。

参考文献　林宏、岡田徹 1992. わが国におけるコアジサシSterna albifronsの繁殖状況. Strix11.



県内の分布

カンムリウミスズメ

チドリ目ウミスズメ科

Synthliboramphus wumizusume (Temminck)

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由　県内での繁殖地は七ツ島に限られている。同所は本種の我が国での繁殖北限でもある。

形　　態　全長約24cm。ウズラ大の小型の海鳥で、頭部には短い冠羽がある。頭部と体上面は黒色、首，胸，下面は白色。

国内分布　九州沿岸、四国太平洋岸、紀伊半島南部、伊豆諸島などに分布、繁殖が確認されている。

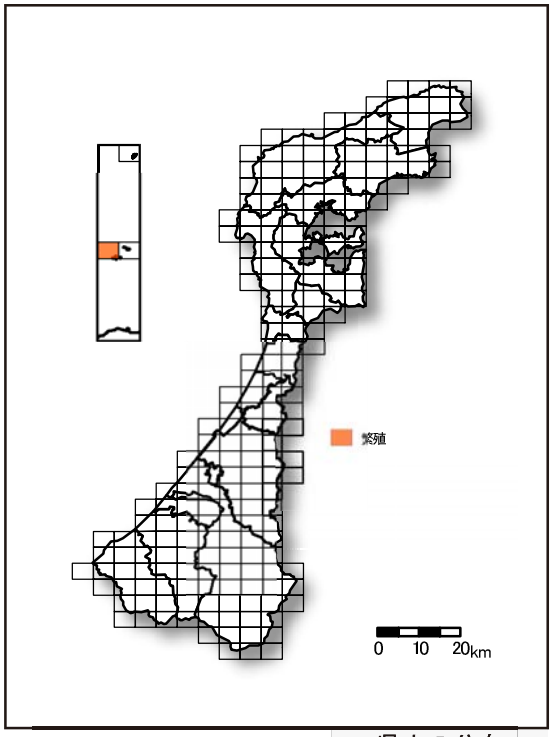
県内分布　輪島市七ツ島の大島、御厨島、荒三子島で繁殖が確認されているが、非繁殖期の生息状況は不明。近年、大島と御厨島では繁殖の形跡がなく、繁殖地は荒三子島のみと推測されている。

生　　態　潜水して小魚、甲殻類などを捕る。3月下旬から4月上旬、岩の割れ目やくぼみに1～2卵を産み、雌雄交代で約１月抱卵する。孵化したヒナは1～2日後親鳥に連れられて巣を離れ、海に出る。

生息地の条件　捕食者となるヘビ、哺乳類のいない岩礁、無人島。

生存の危機　ドブネズミの侵入による被補食、刺し網等による混獲。（A，C）

特記事項　国指定天然記念物。日本での推定個体数は5000～6000羽。県内では荒三子島に数十羽と推測されるが、最近捕食者（おそらくドブネズミ）による被害が深刻である。早急な対策が望まれる。



県内の分布

イワヒバリ

Prunella collaris (Scopoli)

スズメ目イワヒバリ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	なし

選定理由　県内では白山高山帯のみに生息し、日本での分布西限に当たる。生息数も20～30羽と少ない。

形　態　全長約18cm。雌雄同色。頭部から胸は灰色、体は褐色。上面は黒い縦斑があり、黒っぽく見える。翼、尾は黒褐色。

国内分布　本州の標高2400m以上の高山帯に繁殖し、冬期は山地帯の谷にくだる。

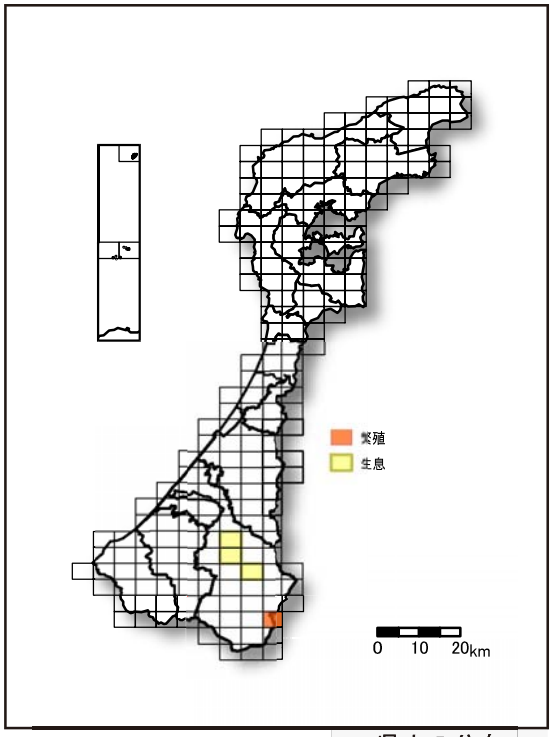
県内分布　白山の高山帯に分布し、繁殖終了後は山ろくの谷に移動する。推定個体数は約70羽。

生　態　小さな群単位で生活し、婚姻形態は多夫多妻、いわゆる乱婚。繁殖期は6～9月で、2回行うものもいる。岩のすき間などに営巣し、卵数は2～3個。抱卵期間は12日、育雛期間は約14日。

生息地の条件　標高2400m以上の高山帯。

生存の危機　高山帯の開発行為、環境汚染、ゴミの増加による病原菌、天敵の増加のおそれ。(A, C)

参考文献　上馬康生. イワヒバリの生態 1997. 白山の自然誌17. 自然保護センター.



県内の分布

チゴモズ

Lanius tigrinus Drapiez

スズメ目モズ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠA類

選定理由　近年全国的に減少が著しい。県内での生息地は1箇所のみで、生息数もごく少ない。また石川県は日本での繁殖分布のおそらく西限にあたる。

形　態　全長約19cm。頭部は青灰色、背、翼など上面は赤褐色。黒い過眼線があり、下面は白色。

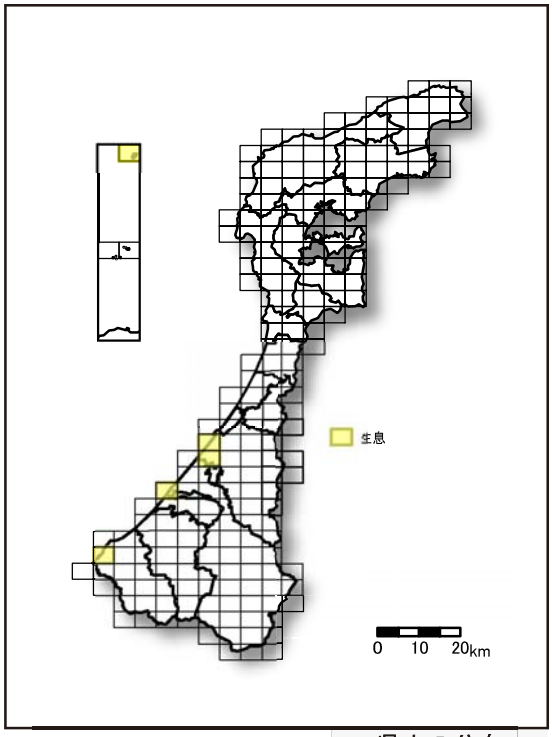
国内分布　夏鳥として渡来し、本州の中部以北に局地的に分布する。平地から山地帯にかけての広葉樹林、アカマツ林、クロマツ林、雑木林、果樹園などに繁殖する。

県内分布　金沢市、内灘町の海岸クロマツ林で少数が繁殖していたが、現在確実な繁殖の情報はない。

生　態　主食は昆虫。繁殖期は6～7月。抱卵期間、育雛期間ともに14～15日。

生息地の条件　餌の豊富なまばらな広葉樹林、マツ林。アカモズよりは密生した林を好む。

生存の危機　健民海浜公園では低木の伐採などがあげられるが、詳細はよくわかっていない。越冬地での環境悪化、乱獲などが懸念されている。（A, D）



県内の分布

アカモズ

Lanius cristatus Linnaeus

スズメ目モズ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類

選定理由　近年全国的に減少している。県内でも生息は局地的で、減少が著しい。

形　　態　全長20cm。頭部から背、翼、尾などは赤褐色。下面は白。黒い過眼線と白い眉斑を持つ。

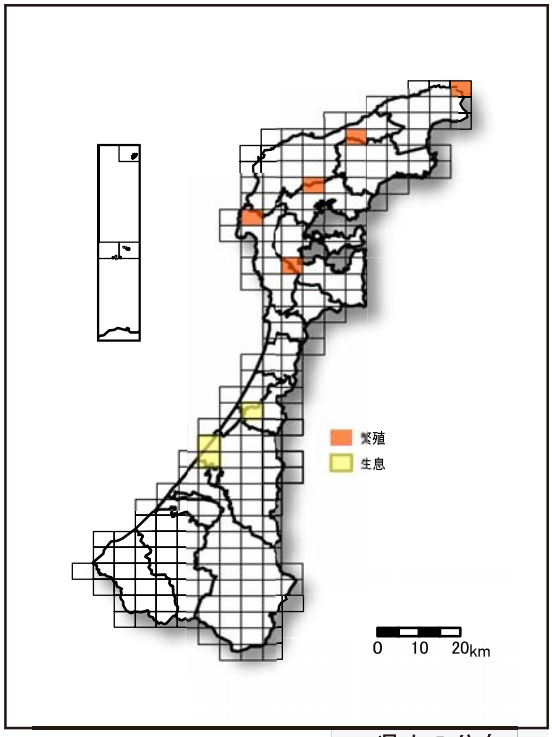
国内分布　夏鳥として九州中部以北の平地から低山の林、灌木のある草原に渡来する。本州では高原、北海道では低地の草原に多い。

県内分布　加賀地方ではクロマツなどの海岸砂防林、能登地方では低山の疎林に分布していたが、近年急激に数が減少した。現在、加賀地方で確実な繁殖地の情報はない。

生　　態　主食は昆虫。繁殖期は5～7月で、抱卵期間，育雛期間はともに14～15日。

生息地の条件　加賀では海岸近くのクロマツ、ニセアカシア林と隣接する灌木のある草原。能登では低山の疎らな林や潅木のある草原。

生存の危機　海岸林の伐採など。しかしそれほど環境が悪化していない場所でも減少しており、越冬地での環境悪化、乱獲などが懸念されている。(A，D)



県内の分布

マガン

Anser albifrons (Scopoli)

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由
全国的にも越冬地は限られており、その中でも石川県は有数の越冬地であること。また水田の減少および乾田化で、生息環境が悪化している。

形　態
全長65～78cm。雌雄同色。全体的に灰褐色。成鳥は嘴がオレンジ色またはピンク。額が白、腹に不規則な黒斑がある。秋季の幼鳥は嘴が濁黄色で、先端などが黒く、額の白と腹の黒斑を欠く。下尾筒は白い。足はオレンジ色。

国内分布
冬鳥として日本に渡来し、北日本に局地的に越冬する。3万羽が越冬しているといわれているが、その約8割が宮城県の伊豆沼である。ここ10年間で日本への渡来数は3～4倍に増加しているが、アジア全体では10分の1に減少していると言われる。

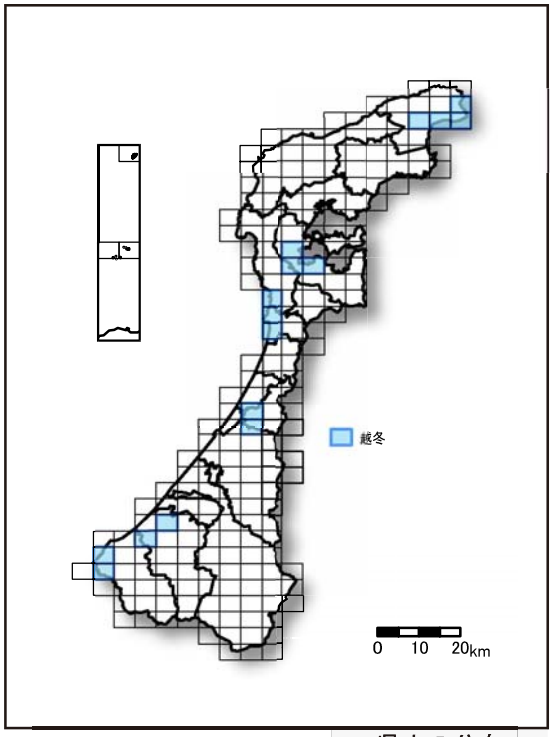
県内分布
片野鴨池に約2,000羽が越冬しており、福井県坂井平野と行き来をしている。その他に珠洲市、邑知潟、志賀町、河北潟などに越冬群が見られる。

生　態
淡水湖沼または干潟とその後背地に採食地となる水田などの広い耕地を持つ地域に生息する。イネの籾や二番穂、イネ科の水田雑草などを食べる。警戒心が非常に強い。

生息地の条件
人がほとんど入らないような広い田圃や畑があり、落ち着いて寝られる塒（池や潟）があること。

生存の危機
水田の減少および乾田化により、生息地と餌が不足。ハンターによる間接的な影響も大きい。（A）

特記事項
国指定天然記念物。



県内の分布

カリガネ

Anser erythropus（Linnaeus）

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由　全国的にも越冬地は限られており、その中でも石川県は有数の越冬地であること。また水田の減少および乾田化で、生息環境が悪化している。

形　　態　全長58cm。日本のガン類では最も小さい。雌雄同色。全体的に灰褐色。嘴はオレンジ色またはピンク。額が白、腹には不規則な黒斑がある。マガンに酷似するが嘴が短く、目の周囲はリング状に黄色い。下尾筒は白い。足はオレンジ色。

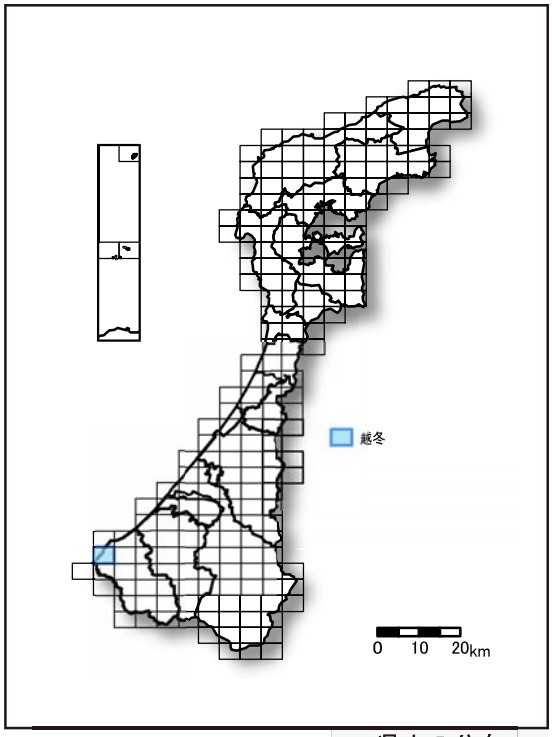
国内分布　数の少ない冬鳥として、宮城県伊豆沼などマガンの越冬地でごく少数が観察されている。

県内分布　冬鳥として、片野鴨池に渡来するマガンの群れに混じって毎年2、3羽が観察されている。冬期は福井平野と行き来をしている。

生　　態　淡水湖沼または干潟とその後背地に採食地となる水田などの広い耕地を持つ地域に生息する。二番穂やイネ科の水田雑草などを食べる。警戒心が非常に強い。

生息地の条件　人がほとんど入らないような広い田圃や畑があり、落ち着いて寝られる塒（池や潟）があること。

生存の危機　水田の減少および乾田化により、生息地と餌が不足。ハンターによる間接的な影響も大きい。（A）



県内の分布

ヒシクイ

Anser fabalis (Latham)

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧

選定理由
非常に警戒心が強く、人との接触をいやがる。水田の減少および乾田化で、生息地と餌が減少している。

形　態
亜種ヒシクイ全長78～89cm。亜種オオヒシクイ全長90～100cm。雌雄同色。きわめて大型のガン。嘴は黒色で、先端付近にオレンジ色の部分がある。マガンと異なり額は白くなく、頭と嘴が体に比べて大きい。

国内分布
冬鳥として2亜種が渡来する。亜種ヒシクイは北海道を経て宮城県北部まで、亜種オオヒシクイは北海道を経由して日本海沿いに琵琶湖まで南下する。両亜種とも約6,000羽が飛来。

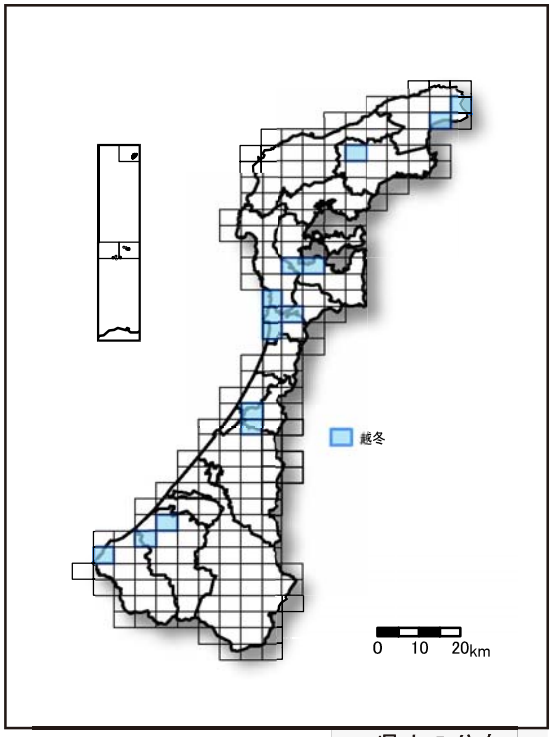
県内分布
冬鳥として片野鴨池に毎年300～600羽が渡来する。ほとんどは亜種オオヒシクイである。その他に珠洲では約200羽、河北潟、邑知潟に少数が渡来する。

生　態
亜種により生息地の環境は著しく異なる。亜種ヒシクイは開けた環境で生活するのに適しており、広い水田に終日とどまり、夜も塒の湖沼に帰らずそこで過ごすことも珍しくない。一方、亜種オオヒシクイは湿地での生活に適応した体型をしており、マコモやヒシなどの水生植物が繁茂した沼を好み、これらの根茎や種子を長い首と嘴を使い沼の中で採食することを好む。警戒心が非常に強い。

生息地の条件
人がほとんど入らないような広い水田（湿田）や湿地があり、落ち着いて寝られる塒（池や潟）があること。

生存の危機
水田の減少および乾田化により、生息地と餌が不足。ハンターによる間接的な影響も大きい。（A）

特記事項
国指定天然記念物。
国カテゴリーで、亜種ヒシクイA. f. *middendorffii* 絶滅危惧Ⅱ類、亜種オオヒシクイA. f. *serrirostris* 準絶滅危惧。



県内の分布

トモエガモ

Anas formosa Georgi

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由　極東にのみ生息し、世界的に数が少ない希少鳥である。石川県は日本でも有数の渡来地であること。

形　態　全長40cm。雄の冬羽は頭部が淡黄色と緑色の巴模様をしている。胸は黄褐色に黒斑があり、肩羽の数枚が蓑羽状になっている。雌は全体が褐色で、下嘴の付け根部に淡い円形の白斑がある。雄のエクリプス羽は雌に似る。

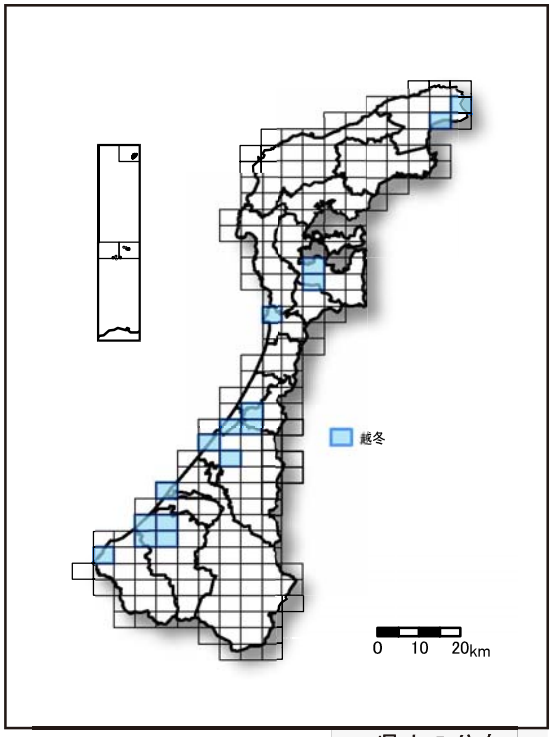
国内分布　冬鳥として渡来するが、局地的で数は少ない。主に関東以西で越冬する。太平洋側より日本海側に多く見られる。以前は大群が飛来したというが近年はほとんどない。

県内分布　冬鳥として渡来するが、年によって個体数の変動が激しい。片野鴨池には定期的に数十羽が渡来し、河北潟には時に2000羽を越す群が飛来することもある。その他には七尾西湾に少数が渡来する程度である。

生　態　大きな群は少ないが、年によっては千羽を超える群が見られることもある。群で行動することが多い。湖沼、池、河川などで過ごす。主に植物食でイネの落穂や、草の種子を好み、水生小動物も食べる。臆病な性質で人を近づけさせない。

生息地の条件　臆病な性質なので、人が近づけない広い開水面をもつ湖沼など。

生存の危機　神経質なため釣り人ややマリンスポーツなどの影響を受けやすい。また、ハンターによる間接的な影響も大きい。狩猟鳥ではないが、雌はコガモとの区別が難しく、誤って狩猟される可能性もある。(A)



県内の分布

オジロワシ

Haliaeetus albicilla (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類

選定理由　沿岸、河川、湖沼などの水界生態系の頂点に位置する大型のワシで、県内には冬鳥として数羽が越冬するのみである。

形　態　全長約90cm。翼開長約2.2m。雄よりも雌が大きい。大型のワシで、翼は広大で尾は短く、ややくさび形である。成鳥の体は茶褐色で、頭から胸部にかけてクリーム褐色、尾羽は白い。幼鳥と若鳥は全身褐色で、尾羽は齢ごとに白色部が増す。くちばしと足は黄色。

国内分布　本州中部以北の河口や湖沼に冬鳥として渡来するが、九州や琉球列島まで南下することもある。北海道東部、北部で少数が繁殖している。

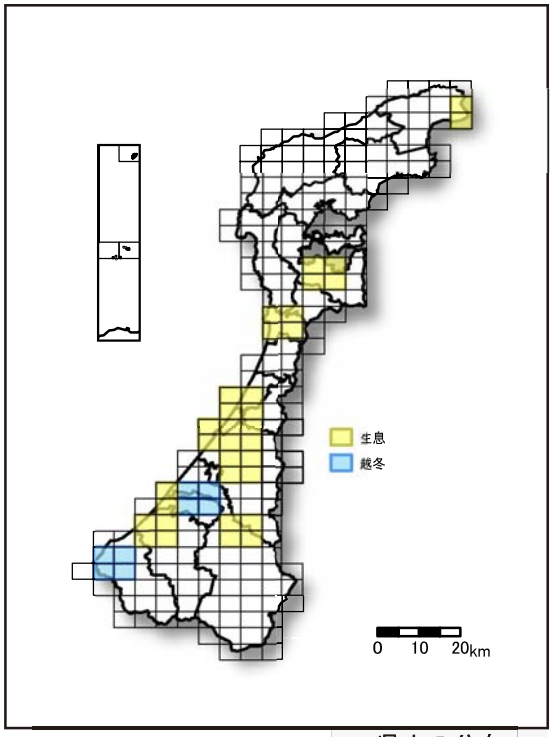
県内分布　県内の定期的な渡来地は、加賀市片野鴨池、手取川で毎年数羽が越冬する。そのほか、七尾西湾、河北潟、邑知潟、木場潟、柴山潟などの海岸や湖沼でも姿が見られることがある。また、大きな河川上流の山間部で見られることもある。

生　態　北海道東部、北部の繁殖地では、広い原生林の続く湖沼畔や海岸にすみ、高木の枝上や海岸の断崖で営巣する。越冬地では海岸、河口、湖沼などにすみ、主に魚類を捕食する。片野鴨池で越冬する個体は、死んだり弱ったりしたガンカモ類を主な餌にしている。

生息地の条件　餌となる魚類や鳥類が豊富に生息し、汚染されていない水辺が餌場として存在すること。さらに、餌場から遠くない所に、外敵が近づかない安全なねぐらが存在すること。

生存の危機　水界生態系の頂点に位置するため、農薬などよる生物濃縮の悪影響を受けやすい。県内の定期的越冬地は2箇所しかなく、個体数も少ない。 (A)

特記事項　国内希少野生動植物種、国指定天然記念物。



県内の分布

サシバ

Butastur indicus (Gmelin)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由
夏鳥として丘陵帯に渡来するタカで、近年個体数が著しく減少している。人間の生活圏に近い所に生息するため、生息地が開発されやすく生存がおびやかされる。

形　態
全長約50cm。翼開長約110cm。雄よりも雌が少し大きい。ハシボソガラスぐらいの大きさのタカで、翼は細長く尾は中ぐらいの長さである。頭部は褐色で白い眉斑をもつものが多い。体と翼上面は赤みのある褐色で、胸は褐色、腹はクリーム白色で暗褐色の横斑が密にある。尾は灰褐色で3本の黒帯がある。喉は白く中央に1本の縦筋がある。

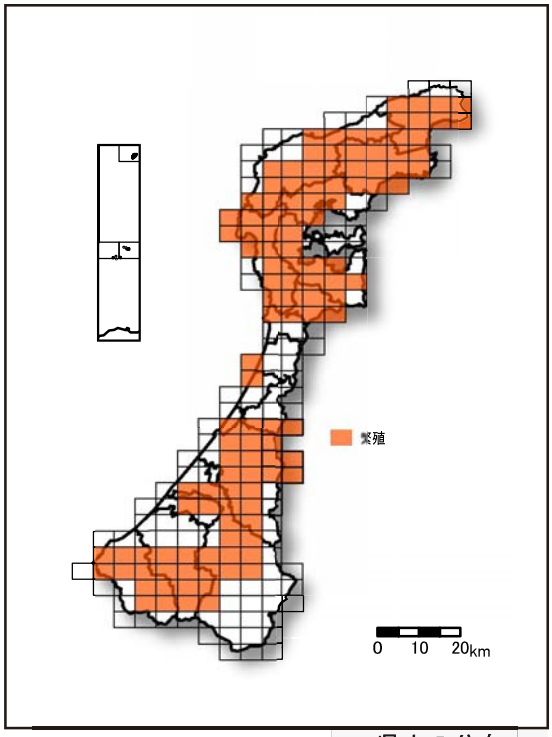
国内分布
夏鳥として渡来し、本州（秋田県、岩手県以南）、伊豆諸島、四国、九州で繁殖する。南西諸島では、渡りの際に通過し、少数は越冬している。

県内分布
夏鳥として平地から山地帯に生息、繁殖する比較的ふつうのタカであったが、全県下で個体数の減少が著しい。秋期の9月下旬から10月上旬にかけて、能美市観音山や加賀市刈安山などで南に渡る個体が多い日には400羽近く確認できる。

生　態
4月初旬に渡来し、産卵期は5月頃で、一腹卵数は2～4個、抱卵日数は30日前後、孵化後約35日で巣立ちする。ヘビ、トカゲ、カエル、ネズミ、バッタなどを餌にする。

生息地の条件
平地から標高800mくらいまでの、主にアカマツからなる雑木林などで繁殖する。狩り場は水田、畑、湿地などの開けた土地であり、谷に田が入り込んだ地域などが好まれる。人家に近い里山に生息するため、人間活動による悪影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが条件となる。

生存の危機
人家に近い里山に住むため、開発など人為的影響を受けやすい。また近年は、里山の水田放棄によって餌場が減少し、大きな影響を受けている。（A, B）



県内の分布

オオタカ

Accipiter gentilis (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由
小型から中型の鳥獣の捕食者として、丘陵帯を中心とした生態系の頂点に位置するタカで、個体数は多くない。

形　態
全長約55cm。翼開長約1.2m。雄よりも雌が大きい。トビよりも小さいタカで、幅広く短い翼と長い尾をもつ。成鳥では、上面は暗青灰色で尾には3～4本の黒色横帯があり、眉斑は白く過眼線と頬は黒い。下面は白く、黒色の細かい横斑が一面にある。雌は全体にやや褐色みが強い。幼鳥は上面が褐色で下面は縦斑である。

国内分布
国内のほとんどの地域で留鳥として生息するが、繁殖が確認されているのは北海道、本州、四国である。冬期は全国で観察される。近年、個体数の増加が指摘されているが、これは観察精度の向上と平野部の人家周辺での観察例が増えているためで、必ずしも個体数の増加を示すものではないとされる。

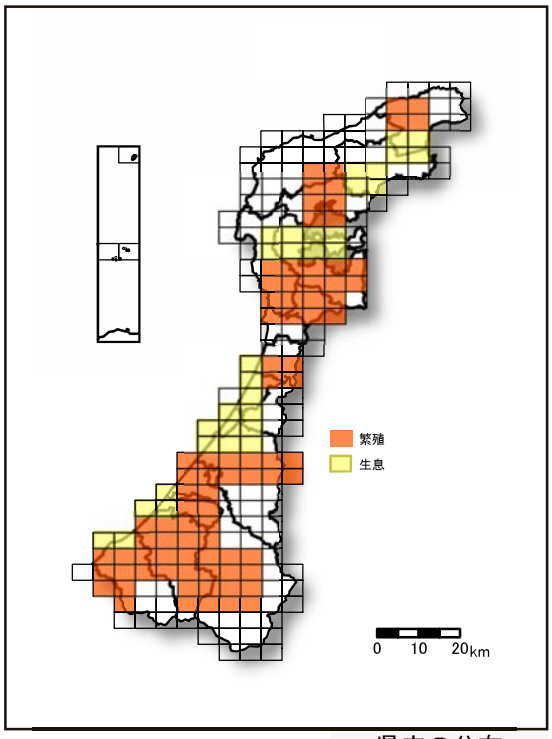
県内分布
1990年に能登で、1991年には加賀で初めて繁殖が確認され、1994年には海岸林でも繁殖が確認された。その後相次いで繁殖地が確認され、県内に広く分布していることが明らかになった。秋冬期には県内各地の平地から山地で観察される。近年、加賀地方では平野部での営巣が見られるなど観察例が増加しているが、逆に能登地方では営巣数が減少しており、引き続き、分布や繁殖状況などその動向を注意深く見守る必要がある。

生　態
加賀や能登の丘陵帯で繁殖するが、繁殖ペアは多くない。アカマツに営巣する例が多いが、近年の松枯れの影響か、スギ、モミなどでの営巣もみられる。産卵期は4月から5月で、一腹卵数はふつう2～3個、抱卵日数は約35日、孵化後約40日で巣立ちする。秋期には南に渡る個体が観察される。ハト類など中型の鳥を主食にしている。

生息地の条件
標高500m以下の、アカマツ、スギ、モミなどで営巣することが多い。海岸のクロマツ林での営巣例もある。人間活動による悪影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが生息地の条件となる。

生存の危機
丘陵地、いわゆる里山に住むため、開発などの影響を受けやすく、また密猟の危機に常にさらされている。（A, B）

特記事項
国内希少野生動植物種。



県内の分布

ハヤブサ

Falco peregrinus Tunstall

タカ目ハヤブサ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由　鳥類の捕食者として海岸部の生態系の頂点に位置する鳥で、繁殖は局地的であり、繁殖個体数は多くない。

形　　態　全長雄は約40cm、雌は約50cm。翼開長1m前後。雄よりも雌がかなり大きい。ハシボソガラスよりもやや小さいタカで、体、翼、尾の上面は暗青灰色、顔にはひげ状の黒斑がある。下面は白く腹と脇の羽毛に黒い横斑がある。幼鳥の上面は暗褐色で、下面は淡い茶色で暗褐色の太い縦斑がある。

国内分布　北海道から九州までの海岸や小島の断崖などで繁殖する。冬期には大陸から越冬のために渡ってくる個体群があり、海岸、湖沼、原野などで観察される。

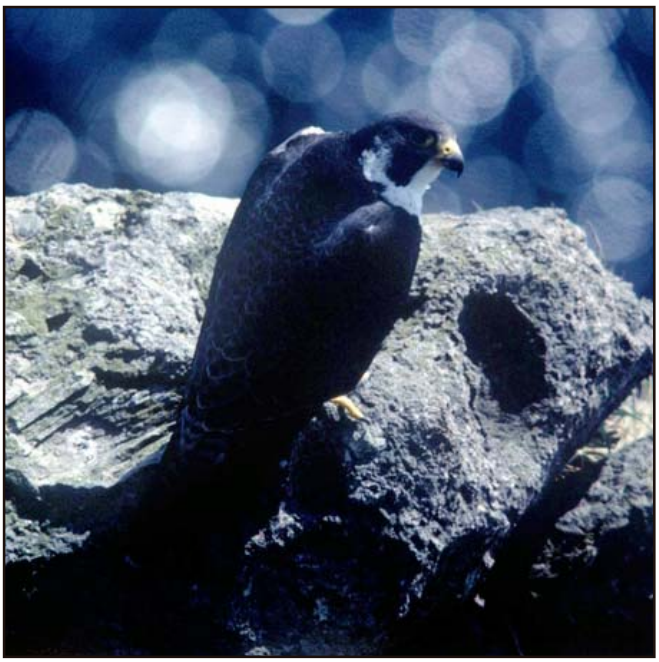
県内分布　能登半島と加賀地方の海岸で繁殖が確認されている。また近年は金沢市内のビルで繁殖するものも複数見られており、繁殖個体数はかつてに比べて増加している。越冬期には冬鳥として渡来するものがあり、各地で姿が見られる。

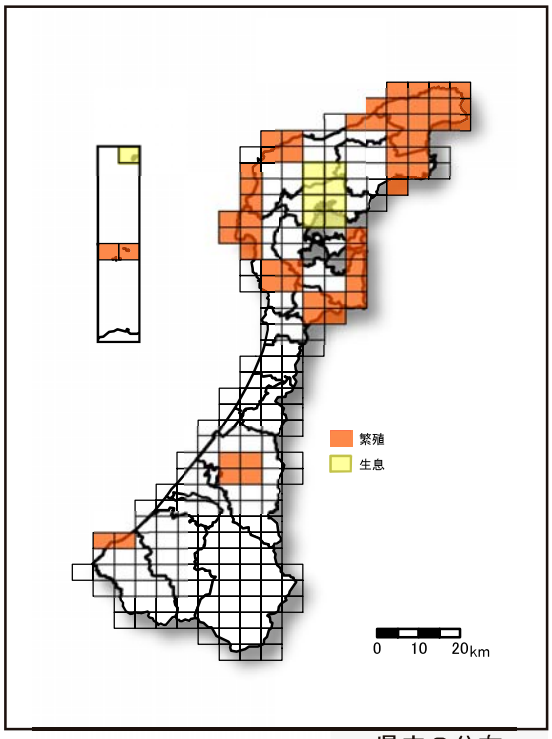
生　　態　岩山や海岸の断崖に営巣する。産卵期は3～4月で、一腹卵数は3～4個、抱卵日数は30日前後、孵化後40日前後で巣立ちする。断崖の棚や木の枝などの見張り場に止まって鳥を待ち、獲物を定めると上空から急降下して足でつかみとる。餌は小型・中型の鳥類である。

生息地の条件　繁殖には、営巣地としての外敵が近づきにくい海岸の断崖や岩山と、餌となる鳥類の豊富な狩り場が必要である。

生存の危機　確認されている繁殖個体数は多くない。また、釣り人の侵入などにより、繁殖環境が脅かされつつある。また、密猟の危機に常にさらされている。（A）

特記事項　国内希少野生動植物種。





県内の分布

イカルチドリ

Charadrius placidus J.E. & G.R.Grey

チドリ目チドリ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	なし

選定理由
県内では梯川、手取川、犀川などの河川氾濫原に依存して繁殖し、生息数も少ない。

形　態
全長21cm。翼長15cm。体重70g。頭頂と上面は砂褐色で下面は白い。前頭部と目先から耳羽にかける部分は褐色味のある黒色である。胸に細い黒色の帯があり、淡色の翼帯がある。目のまわりの裸出部は黄色であるがあまり目立たず、冬羽ではかすかになる。嘴はやや長く黒色で、脚は淡黄色である。

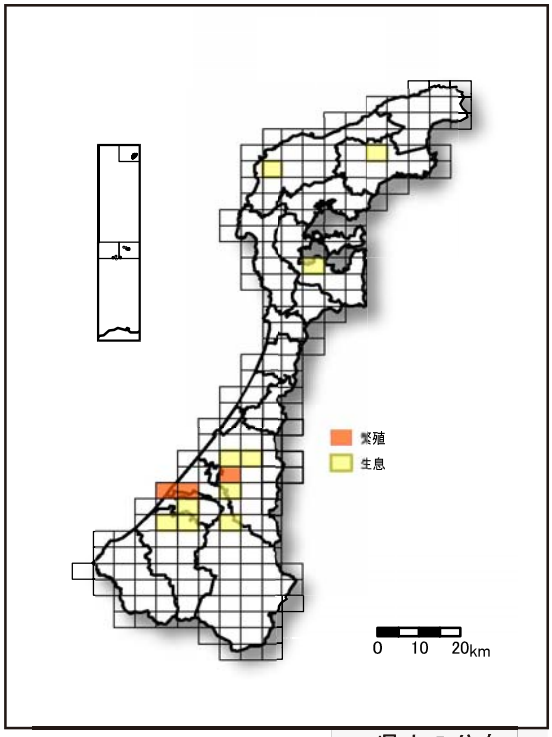
国内分布
北海道から南西諸島までみられるが、繁殖しているのは本州、四国、九州である。北日本では繁殖後暖地へ移動する。越冬北限は、太平洋側は青森県、日本海側は新潟県といわれている。

県内分布
河川の中流域の中州や河原で繁殖する。渡りの時期には県内各地で観察されることがあるが、数は少ない。冬期は大聖寺川下流、梯川中流、手取第3ダム、手取川中流から下流、七尾西湾などで越冬している。

生　態
河川の中州や河原で4～7月に繁殖し、砂利、小石、小枝などを産座に集めた簡単な巣を地上につくる。一腹卵数は2～4個で、約27日で孵化する。孵化したヒナにはすでに綿毛がはえていて、独力で採食する。採食場所は主に川筋や湿地で、餌は水生昆虫などの小動物である。

生息地の条件
営巣場所は植物が繁茂しない安定した河原であるが、人間活動による影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが条件となる。

生存の危機
繁殖環境が河川の氾濫原に特定される上、侵入してくる4輪駆動車、オートバイ、釣り人など、人間活動の影響によって繁殖がかく乱されやすい。 (A)



県内の分布

シロチドリ

Charadrius alexandrinus Linnaeus

チドリ目チドリ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	なし

選定理由
繁殖個体数は少ないうえ、近年の海岸浸食など、生息環境の悪化により激減するおそれがある。

形　態
全長17cm。翼長11cm。体重45g。雄夏羽では頭頂が茶褐色で、上面、雨覆は灰褐色、前頭部に黒帯がある。額から続く眉斑は白色で、過眼線と胸側は黒色で、喉から体下面は白色である。雌は頭頂、前頭、過眼線、胸側が砂褐色である。翼帯があり、嘴と足は黒色、雄の冬羽は雌に似る。幼鳥は背から雨覆にかけ羽縁に淡い褐色の縁どりがある。

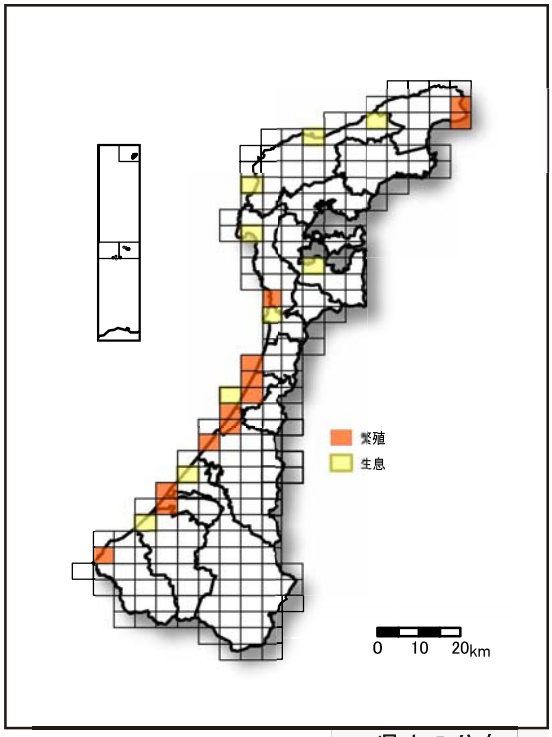
国内分布
北海道から南西諸島までみられるが、繁殖するのは九州以北である。北日本では繁殖後暖地へ移動する。

県内分布
加賀海岸から能登半島外浦の海浜、砂浜で繁殖している。繁殖ペアは30～40、80羽未満と推測される。繁殖期が終わると群をつくり一部南下するが、越冬するものもある。

生　態
砂浜海岸などで繁殖する。繁殖期は4～7月で、小石などを産座に集めただけの簡単な巣を地上につくる。一腹卵数はふつう3個で、約3週間で孵化する。孵化したヒナにはすでに綿毛がはえていて、独力で採食する。採食場所は主に海岸や干潟などで、餌は甲殻類、ゴカイなどの小動物である。

生息地の条件
県内での繁殖地はほとんど砂浜海岸である。人間活動による影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが生息地の条件となる。

生存の危機
海岸浸食による繁殖地の消滅や、侵入してくる4輪駆動車、オートバイ、釣り人、イヌの散歩、集団海岸清掃などにより繁殖がかく乱されやすい。 (A)



県内の分布

タマシギ

Rostratula benghalensis (Linnaeus)

チドリ目タマシギ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	なし

選定理由
水田、休耕田、湿地などに夏鳥として渡来して繁殖する鳥であるが、近年の湿地の減少や水田の乾田化などにより、生息個体数が減少している。

形　態
全長24cm。翼長12～14cm。体重140～180g。雌の方が雄よりも色彩が派手で、体も大きい。雄は頭から背にかけて全体に褐色で、肩から背には黄褐色の線があり、肩から胸には太い白線がある。側面には褐色を帯びた黄色の斑点があり、腹は白い。目の周囲と頭央線は黄褐色。雌は目の周囲が白色で顔から胸が赤褐色、背から側面は緑がかったブロンズ色。幼鳥は雄に似る。

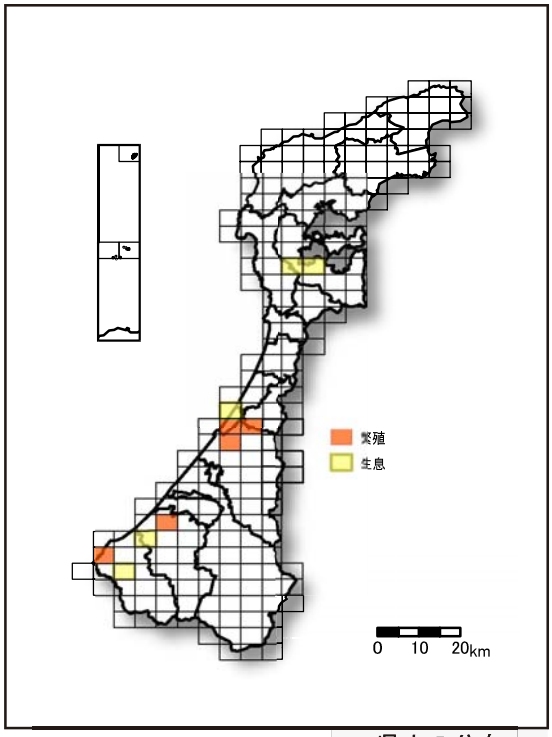
国内分布
関東地方、北陸地方以南で局地的に繁殖し、大部分のところでは留鳥。北海道、山形県、宮城県でも記録がある。

県内分布
夏鳥として渡来し、大聖寺川下流、柴山潟、河北潟、七尾西湾などで繁殖例や観察例がある。渡りの時期には他の地域でも観察されている。奥能登の生息状況は不明である。河北潟では越冬例もある。

生　態
水田、休耕田、湿地などに生息し、イネの株と株の間や地上の草陰などに巣をつくる。一腹卵数はふつう4個で、約19日で孵化する。餌は昆虫、ミミズ、草の種子などである。繁殖期の夜間に雌が「コー、コー、コー」とよくとおる声で鳴く。繁殖期に一妻多夫のつがいをつくる。

生息地の条件
水生昆虫や小動物などの餌が豊富にある湿地や水田に生息、繁殖する。

生存の危機
近年の平地や里山の開発や水田の乾田化により、生息に適した湿地や水田が減少している。 (A, B)



県内の分布

ホウロクシギ

Numenius madagascariensis (Linnaeus)

チドリ目シギ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由
春秋の渡りの時期に毎年記録されているが、単独での渡来がほとんどで、個体数は非常に少ない。

形　　態
全長62cm。翼長28～33cm。体重558～1040g。長くて下方に湾曲した嘴をもち、あし、首の長い大型のシギである。嘴は黒色で下嘴の基部は肉色を呈し、その長さは頭の長さの3倍余になる。上下面とも淡褐色の地に黒褐色の縦斑がある。眉斑と喉は白い。脚は青灰色である。

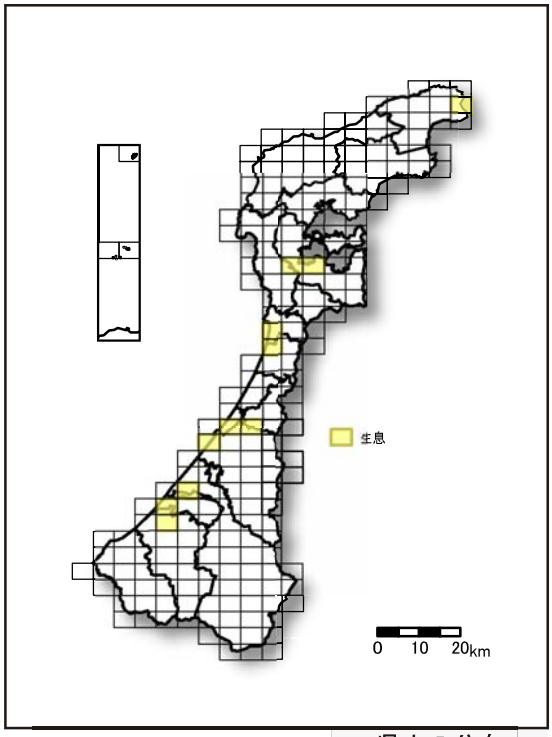
国内分布
春秋の渡りの時期に日本全土を通過する。

県内分布
春秋の渡りの時期に七尾西湾の川尻川河口干潟、河北潟周辺などで毎年記録されるが、ほとんどが単独での渡来で数は少ない。

生　　態
ウスリー地方とカムチャッカ地方で繁殖し、フィリピン、インドネシア、オーストラリアなどで越冬する。繁殖地では湖沼畔の湿地に2～3つがいの小さなコロニーをつくって営巣する。一腹卵数は4個。渡りの時には海岸や湖岸の干潟に生息し、海岸近くの水田や埋め立て地の水たまりなどにも入る。長い嘴を泥に差し込んで、環形動物，軟体動物，甲殻類などの小型水生無脊椎動物を食べる。

生息地の条件
本来干潟を好む種だが、県内でまとまった面積の干潟は七尾西湾の川尻川河口干潟ぐらいしかなく、本種の生息に適した環境はごく少ない。

生存の危機
今のところ毎年記録されているが、唯一といってよい定期渡来地の七尾西湾の川尻川河口干潟の環境悪化などにより、将来渡来しなくなることが懸念される。（A）



県内の分布

アオバズク

Ninox scutulata (Raffles)

フクロウ目フクロウ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	なし

選定理由　平地から低山帯にかけて生息する小型猛禽類で、近年減少が著しい。

形　　態　全長約29cm。雌雄同色。頭部から上面は黒褐色、下面は白く黒褐色の大きな縦斑がある。眼の虹彩は黄色。羽角はない。

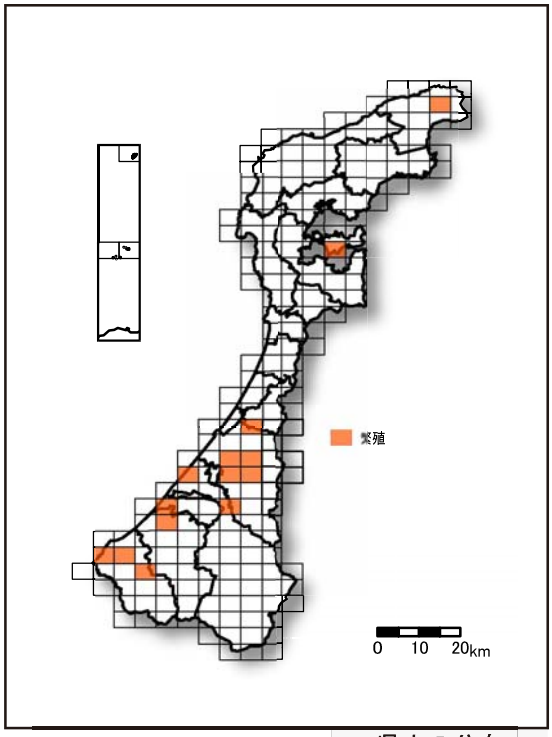
国内分布　夏鳥として全国の平地から低山の森林、寺社林に渡来する。

県内分布　夏鳥として平地から低山の森林、寺社林に渡来する。かつては人家付近でも普通のフクロウ類であったが、近年減少が著しい。

生　　態　夜行性で主に大型昆虫を捕り、ハ虫類や小鳥を捕ることもある。繁殖期は6～8月。主に大木の樹洞に繁殖するが、時には建造物の穴に営巣することもある。抱卵期間は約25日、育雛期間は約28日。

生息地の条件　営巣木となる樹洞のある大木の存在。

生存の危機　平地林、寺社林の伐採による営巣地の減少、餌となる大型昆虫の減少などがあげられる。しかしさほど繁殖環境が悪化していない場所でも減少が著しく、原因はよくわかっていない。（A, D）



県内の分布

ヨタカ

Caprimulgus indicus Latham

ヨタカ目ヨタカ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由　生態系高位の昆虫食種で、近年減少が著しい。

形　態　全長約29cm。全身褐色で赤褐色や黒褐色の斑が多数ある。雄は翼，尾に大きく白斑があるが、雌の斑は小さく、尾にはない。嘴は小さいが口は大きく開き、空中で昆虫を捕らえるのに適応している。足は非常に短く、あまり歩行しない。

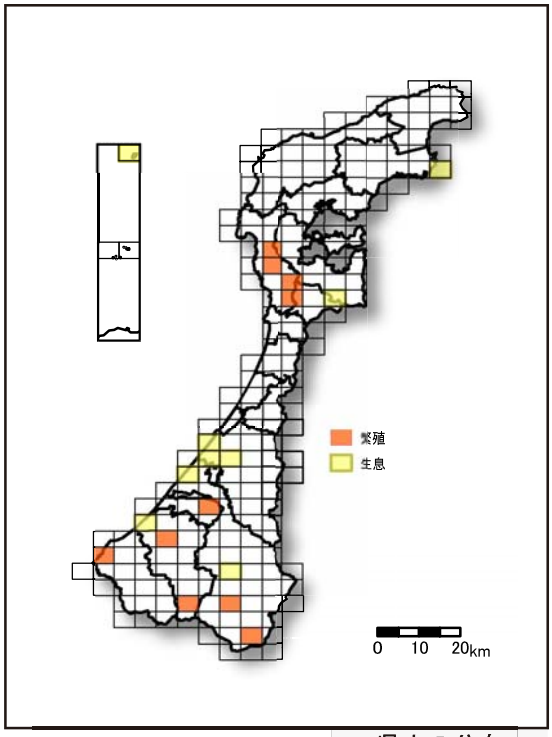
国内分布　夏鳥として九州から北海道までの低山の明るい林に渡来する。北日本では平地にも分布する。

県内分布　夏鳥として平地から山地にかけての明るい林に渡来する。県内では海岸の防風林にも少数が生息するが、近年平野部、海岸林の減少が著しい。

生　態　夜行性で、飛びながら大きな口を開けてガなどの昆虫を捕る。まばらな林の中で営巣し、地面に直接産卵して抱卵・育雛を行う。繁殖期は6～7月、抱卵期間は約18日。

生息地の条件　昆虫の豊富な明るい林。

生存の危機　生息地の開発などが考えられるが、詳しい原因はよくわかっていない。（A，D）



県内の分布

アカショウビン

Halcyon coromanda (Latham)

ブッポウソウ目カワセミ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	なし

選定理由　山地のよく発達した森林を代表する種類。個体数も少ない。

形　　態　全長約27㎝。雌雄同色で全身赤みを帯びた褐色。下面はやや淡く、黄色みを帯びている。嘴は赤く、大きくて長い。

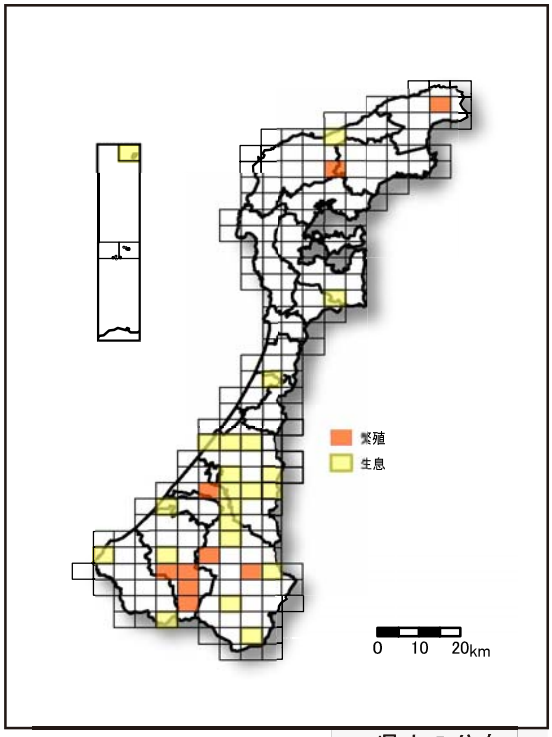
国内分布　夏鳥として渡来し、全国のよく発達した森林や渓流に生息する。北日本では平地林にも生息する。

県内分布　夏鳥として渡来し、県下全域の山地帯のほか、能登ではよくその声を耳にする。

生　　態　森林内の湿地や沢、渓流などでカニ、カエル、小魚、大型昆虫などを捕る。県内では5月中旬頃渡来、6～8月が繁殖期。主に朽ち木に穴をうがって営巣するが、スズメバチの古巣を利用して繁殖した例もある。

生息地の条件　よく発達した森林、餌動物の豊富な渓流。

生存の危機　森林の伐採。特に奥能登での森林伐採の影響が心配される。 (A)



県内の分布

ブッポウソウ

Eurystomus orientalis (Linnaeus)

ブッポウソウ目ブッポウソウ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠB類

選定理由　ブナ林など発達した森林に生息する種であり、個体数が少ない。近年減少している。

形　　態　全長約30cm。全身青みがかった緑色、頭部は黒色味が強い。足、嘴は赤。風切羽には白斑があり、飛翔時に目立つ。

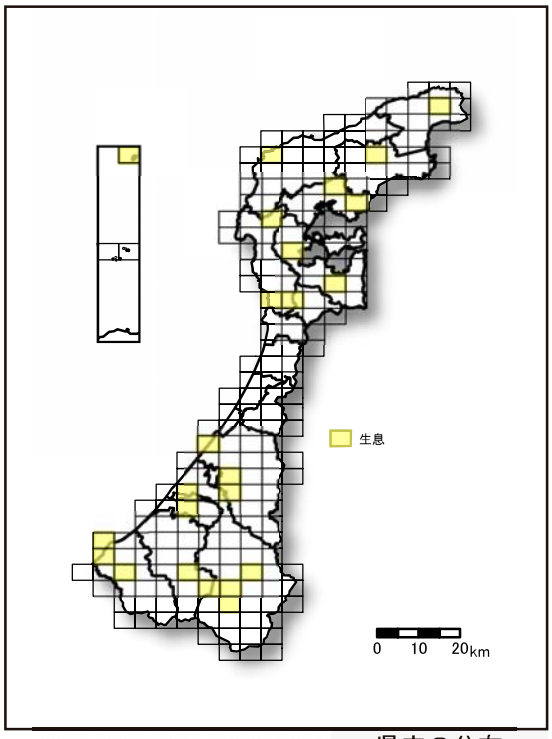
国内分布　夏鳥として本州、四国、九州の発達した森林に渡来するが、分布は極めて局地的である。

県内分布　夏鳥として山地帯の発達した森林に渡来する。渡りの季節には県内各地の山地で、時折目撃されることがある。

生　　態　大型昆虫を主食とし、高木にとまってフライキャッチを行う。5～7月が繁殖期で、大木の樹洞などで営巣し3～4個の卵を産む。抱卵期間は22～23日、育雛期間は約4週間。近年の研究ではキツツキ類やムササビの古巣を多用することがわかっている。巣箱も利用することが知られる。

生息地の条件　営巣木となる大木と、巣穴の提供者となるムササビ、キツツキ類の存在。

生存の危機　営巣木の伐採と巣穴提供者の減少。餌となる大型昆虫の減少。(A)



県内の分布

コジュリン

Emberiza yessoensis（Swinhoe）

スズメ目ホオジロ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由　全国的に数のすくない種類である上、県内での繁殖地は河北潟干拓地のみである。

形　　態　全長15cm、全身褐色で胸から腹部は淡褐色。オスの夏羽では頭巾を被ったように頭部が黒い。

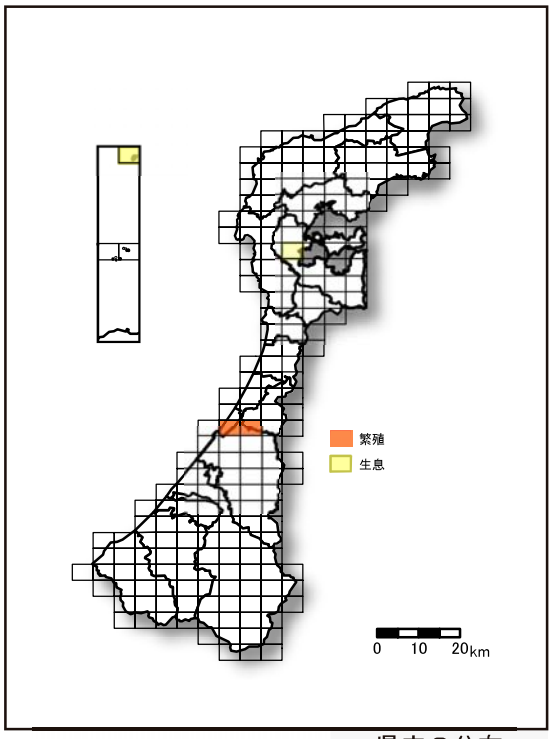
国内分布　青森県、千葉県、茨城県などに夏鳥として渡来し、局地的に繁殖している。冬は本州中部以南のヨシ原や草原で越冬する。

県内分布　春から夏、河北潟干拓地の牧草地、麦畑で少数が見られ、繁殖していると考えられる。ただし干拓地の農業に依存している部分が大きく、将来の作物転換によっては消失する可能性がある。秋から冬にかけては県内のヨシ原で越冬すると思われるが、観察記録はほとんどなく、実態はよく分かっていない。

生　　態　春から夏にかけて、ヨシや背の高い草に止まってさえずる。5月から7月にかけてイネ科の草の根元に営巣する。約2週間でふ化し、11～12日で巣立ちする。

生息地の条件　ヨシ原、牧草地、麦畑など広い草原。

生存の危機　牧草地や麦畑の作物転換、放棄などによる生息地の草原の消失。（A, B）



県内の分布

カンムリカイツブリ

Podeiceps cristatus (Linnaeus)

カイツブリ目カイツブリ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　この種の、世界の繁殖分布の東北端にあたり、生物地理学上も注目すべき存在であるため。

形　態　全長50～56cm。大型のカイツブリで首が長い。雌雄同色で、夏羽では黒い冠羽と、頬に赤褐色と黒の飾り羽があり、よく目立つ。体は黒褐色で、腹など下面は白い。冬羽では飾り羽がなくなり、顔は白くなる。

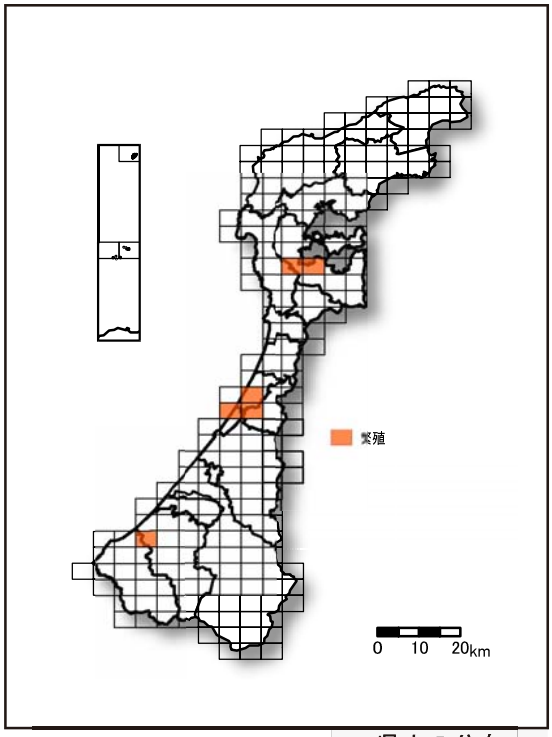
国内分布　冬鳥として九州以北の湖沼、河口、内湾に渡来するが、青森県や滋賀県では少数が繁殖している。青森県の小川原湖沼群に繁殖する個体群は国RDBで絶滅のおそれのある地域個体群に指定されている。

県内分布　主に冬鳥として県内の河川、湖沼、海岸に渡来するが、最近になって柴山潟、河北潟、七尾西湾で少数が繁殖するようになった。

生　態　地上を歩く事がほとんどない潜水性の水鳥で、水に潜って魚、甲殻類、昆虫などを捕食する。4月頃、ヨシやマコモの近くに水草を集めて浮き巣を作り産卵し、約4週間でふ化する。ふ化したヒナはすぐ泳げるが、8月頃まで親鳥から給餌を受けながら一緒に行動する。

生息地の条件　広い水域を持つ大きな湖沼と、餌となる魚など水生生物が豊富なこと。

生存の危機　繁殖域となる湖沼のヨシ原の開発や、釣り人などの影響。（A）



県内の分布

ササゴイ

Butorides striatus (Linnaeus)

コウノトリ目サギ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　個体数が少なく、繁殖できる環境の減少により個体数が減少している。

形　態　全長約52cm。雌雄同色。羽色は頭上が黒色で、後頭部から黒い冠羽が伸びる。背と雨覆光沢のある濃い灰色。下面は明るい灰色で、足と眼は黄色い。若鳥は頭から背にかけて濃い茶色。

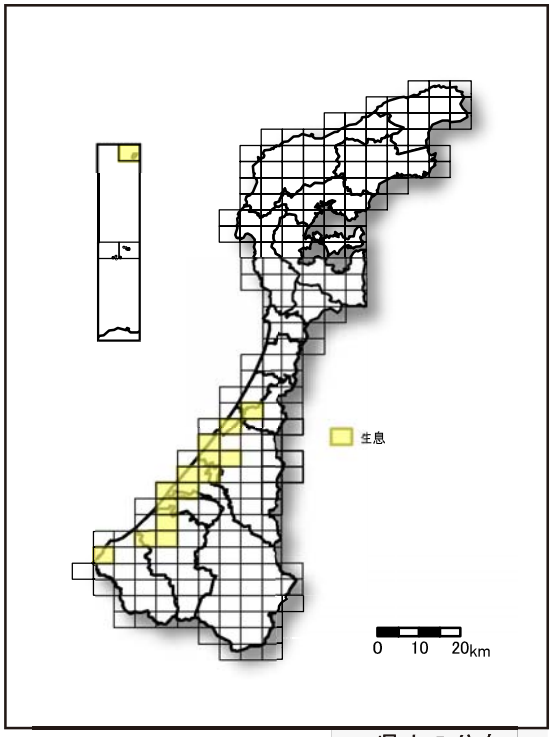
国内分布　本州から九州の各地で繁殖。九州南部では冬にもとどまるものがある。薩南諸島以南から東南アジアにかけては冬鳥として10月頃渡来し、3月頃まで越冬する。

県内分布　水辺近くの林や藪で繁殖するが局所的である。

生　態　水辺に生息し、魚、カエル、ザリガニなどを食べる。日中だけでなく夜間にもさかんに採食する。飛びながらキューまたはピューという鋭い声で鳴く。小さなコロニーをつくり繁殖する。マツ、スギなどの横枝に小枝を集めて粗雑な巣を作る。

生息地の条件　近くに川や池などの餌が豊富な場所があり、繁殖地としてヒトが近づかない林や藪を必要とし、近くに川や池などの餌が豊富な場所を必要とする。

生存の危機　繁殖地となる水辺近くの林や藪が減少。河川改修等で餌となる魚などが減少した。 (A)



県内の分布

チュウサギ

Egretta intermedia (Wagler)

コウノトリ目サギ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由　県内での個体数は少なくないが、国のRDB種であることを考慮して選定。

形　　態　全長63～72cm。雌雄同色。全身白色で、他のシラサギ類に比べてずんぐりした嘴や頭をしていて、首も短め。足の色は黒色。目先は黄色で、嘴の色も黄色であるが、繁殖期になると黒色に変化する。虹彩の色も黄色から赤に短い期間だが変化し、肩や胸に長い飾り羽が生じる。

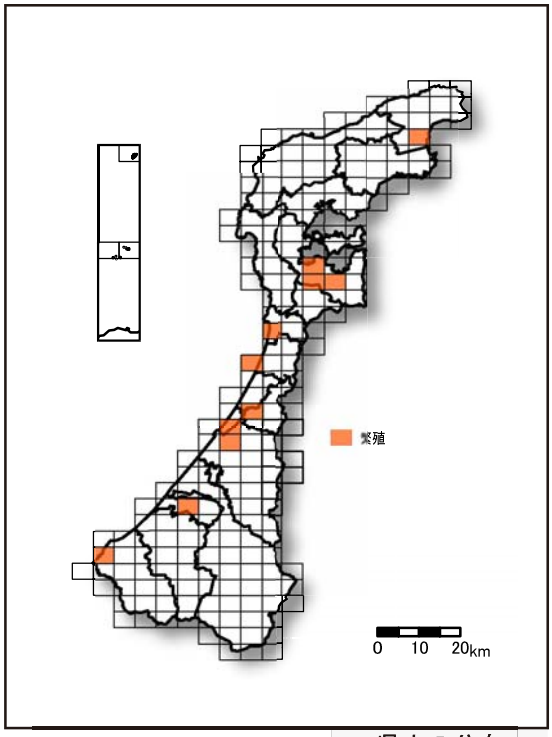
国内分布　主に夏鳥として本州以南に渡来。一部は国内で越冬する。東北や北陸地方に少なく、全国的に減少傾向にある。

県内分布　水田、潟などに生息するが、個体数は少ない。繁殖は海岸の防風林などで行う。

生　　態　水田、湿地などで魚類、甲殻類、昆虫、クモ類などを捕って生活するが、ダイサギ、コサギのように海の干潟には出ない。林や竹藪で他のサギ類との混合コロニーで繁殖する。

生息地の条件　餌が豊富な水田や潟。繁殖できるような人が近づかない広い林。

生存の危機　防風林の減少や公園化、フン害などによる追い出しで繁殖可能な場所が減少。また水田の乾田化などで採食環境が悪化している。（A）



県内の分布

クロサギ

Egretta sacra (Gmelin)

コウノトリ目サギ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　個体数が少ないうえ、繁殖地が限られており、脆弱である。

形　態　全長58～66cm。雌雄同色。全身がすすけた濃い灰色で、喉は黒いものと小さな白い部分あるものとがいる。嘴は黄褐色だが黒っぽい個体もいる。夏羽では目立たない短い冠羽がある。足は黄緑色で指の裏は特に黄色い。亜熱帯から熱帯のサンゴ礁の海岸には全体が白い白色型がいる。

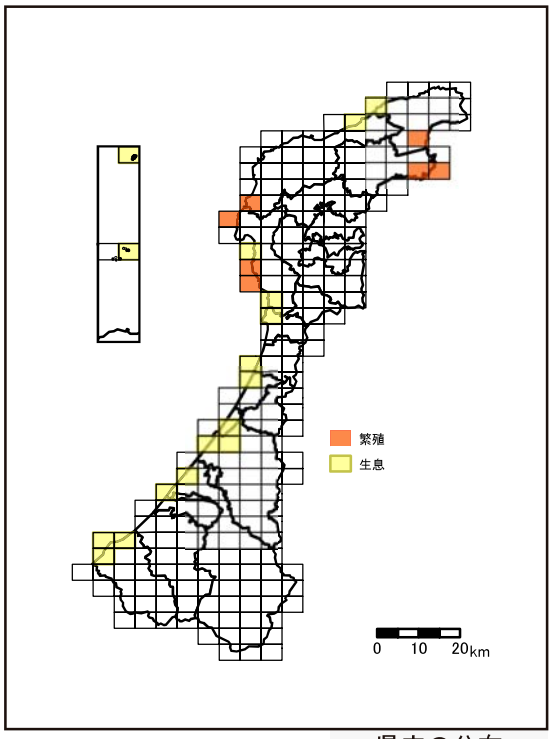
国内分布　本州以南に分布。太平洋側では房総半島以西、日本海側では男鹿半島以南で局地的に繁殖している。

県内分布　繁殖期以外は能登から加賀の海岸に広く分布するが個体数は少ない。確実な繁殖記録は能登だけである。

生　態　岩礁海岸に生息。磯の波打ち際で魚を待ち伏せする。繁殖期は5～6月で、断崖の岩の隙間に小枝を運び込んで巣を作る。時には低木の枝の上に営巣することもある。非繁殖期には岩礁を離れて干潟や河口で観察されることもある。

生息地の条件　餌が豊富な岩礁海岸で、人の影響が少ない場所。

生存の危機　営巣地周辺での人間活動。特に釣り人の影響は大きい。(A)



県内の分布

オシドリ

Aix galericulata (Linnaeus)

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	情報不足

選定理由
繁殖できる森が減少し、繁殖個体数が減少している。越冬する個体数も少ない。

形　　態
全長41～47cm。雄の生殖羽は銀杏羽とよばれるオレンジ色の扇形の羽を翼に持つ。雌は全体が褐色味を帯びた暗灰色で、地味な羽色である。雄のエクリプスは雌に似る。雌雄とも翼鏡は濃緑色、足はオレンジ色。

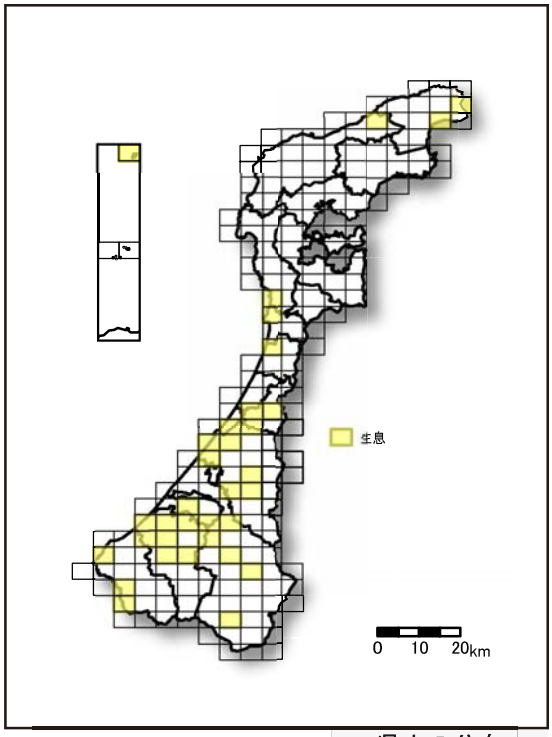
国内分布
主に中部地方以北で繁殖し、冬期は西日本で越冬するものが多い。北海道では夏鳥。

県内分布
低山帯の所々で繁殖をしているようだが、その繁殖形態から直接的な観察例は少ない。繁殖期以外は大きな河川の上流の渓谷やダム湖などに少数が生息する。

生　　態
繁殖期は低地から低山帯の水辺の林の樹洞で営巣する。主に植物食でドングリを好む。穀類、水生植物を食べるほか、カタツムリ、魚などの小動物も採食する。

生息地の条件
広葉樹が覆い被さるような薄暗い水辺を好むため、山地の林に囲まれた湖沼や渓谷。営巣のために樹洞があるような大きな木がある森を必要とする。

生存の危機
樹洞ができる大きな木が減少している。また餌となるドングリがなる森林が減少している。 (A)



県内の分布

ヨシガモ

Anas falcata Georgi

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　個体数が少ない上に、狩猟鳥として撃たれている。

形　　態　全長46～53cm。雄の冬羽は頭部が暗緑色で、後頭に房状の冠羽がある。喉が白色で、首に黒帯があり、三列風切が尾を隠すほど長い飾り羽となっている。胸は灰色で三日月形の黒斑がある。雌は全体が黄褐色の斑のある黒褐色。雄のエクリプス羽は雌に似る。

国内分布　冬鳥として渡来するが、個体数は多くない。北海道では少数が繁殖する。

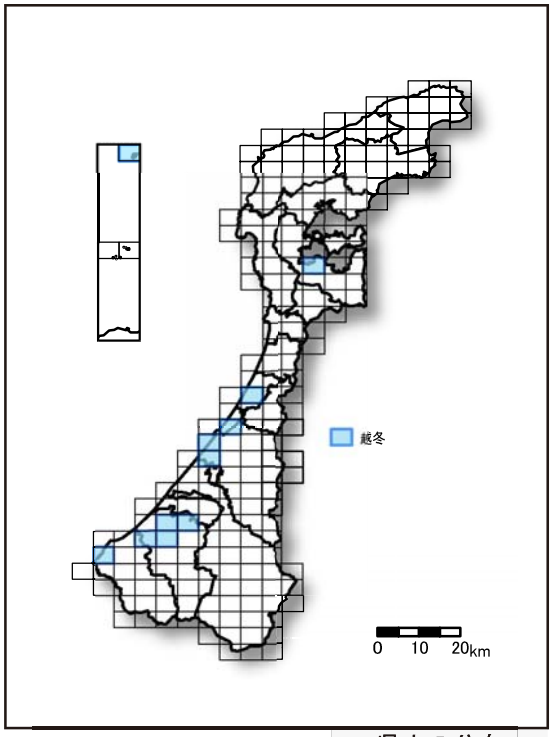
県内分布　冬鳥として渡来するが個体数は少ない。河北潟、七尾西湾、片野鴨池などに小群が渡来するが、他の場所では数羽程度である。

生　　態　遠浅の波静かな湾内を好み、湖沼、池などでも過ごす。群でいることが多い。河口で海藻を食べる大きな群が見られることもある。主に植物食で、穀類、草の種子、水生植物、水藻などを食べるが、水生小動物も食べる。

生息地の条件　人が近づかない波静かな内湾や潟、池などで、餌が豊富な場所。

生存の危機　ハンターによる狩猟圧。 (A)

特記事項　狩猟鳥。



県内の分布

シノリガモ

Histrionicus histrionicus (Linnaeus)

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　個体数が少なく、落ち着いて生息できる環境が狭められている。

形　態　全長38～51cm。雄の模様が美しいカモで、冬羽は頭から上胸と背が青灰色で、眼より前面が白色、耳部に大きい白円斑、その後方にも白い縦長斑がある。胸側と肩羽にも白い帯斑がある。後頭部が赤栗色で、脇は栗褐色、翼は暗褐色で白色の斑や線がある。尾は黒く、側方に小さな白斑がある。雌は眼の下と耳部の大きな白斑があって、全体が褐色。雄のエクリプス羽は雌に似るが、上面がより暗褐色である。

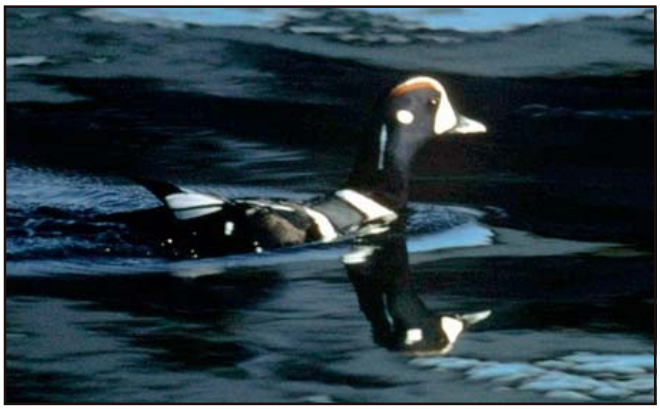
国内分布　冬鳥として渡来し、主に北日本で越冬する。少数が本州北部で繁殖する。

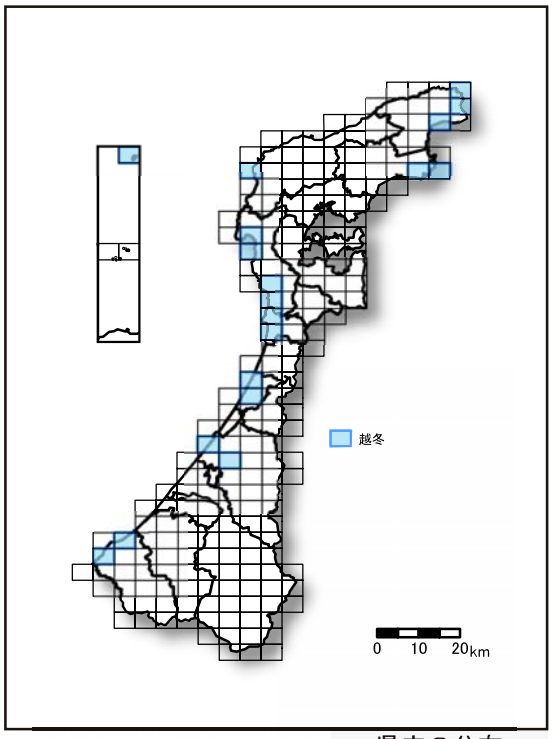
県内分布　能登外浦の海岸に多く、羽咋市柴垣や滝港などに数十羽が越冬する。砂浜が多い加賀海岸ではテトラポットがある場所で観察されることもあるが、個体数は少ない。

生　態　冬期は波の荒い岩礁海岸で、小群で見られる。翼を半開きにして跳ねるようにして水中に潜り採食する。繁殖期には内陸の森林内の渓流に移動し、渓流沿いの草むらや岩陰などに営巣する。動物食で、繁殖期には主にトビケラやその幼虫、冬期には貝類や甲殻類などを食べる。

生息地の条件　人が近づかない波の荒い岩礁で、貝類や甲殻類が多く生息する場所。

生存の危機　越冬地での人間活動。岩礁地帯は岩ノリ採り、砂浜はサーファー等の影響で、落ち着いて採食できる環境が減少している。（A）





県内の分布

ホオジロガモ

Bucephala clangula (Linnaeus)

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　近年、減少傾向であり、落ち着いて生息できる環境が減少している。

形　態　全長40～51cm。雄の冬羽は、頭部が緑光沢のある黒色。眼の下前方に大きな円形の白斑がある。首下の下面は白色で、背中央から尾は黒色。虹彩は黄色。雌は全体が濃褐色から褐色。嘴の先端に黄褐色の帯がある。雄のエクリプス羽は雌に似るが、頭部がより暗色。

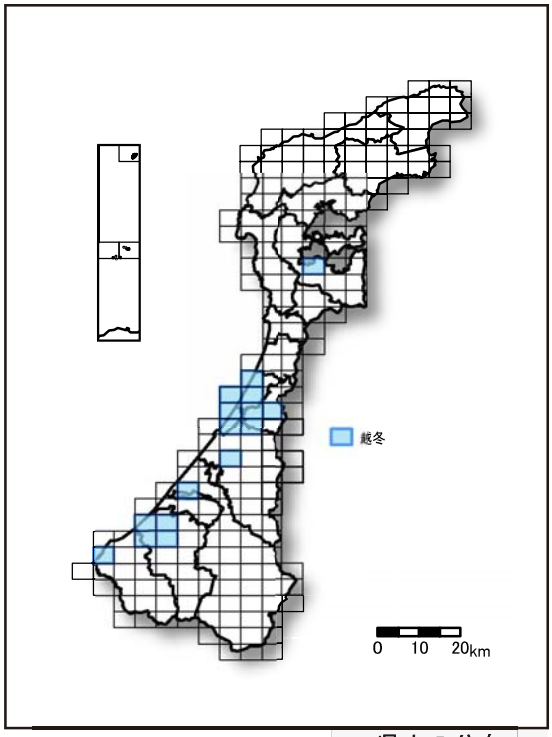
国内分布　冬鳥として全国的に渡来するが、北日本に多い。

県内分布　冬鳥として七尾西湾に毎年約50羽あまりが渡来する。河北潟など加賀の海岸、湖沼でも観察されるが、稀である。

生　態　主に入り江、内湾、干潟などの海岸部で過ごす。潜って採食するのがよく見られる。動物食で、昆虫類、甲殻類、軟体動物などを食べ、時には水生植物も食べる。

生息地の条件　人が近づかず、甲殻類などの餌が豊富で波静かな内湾。

生存の危機　ハンターによる間接的な狩猟圧。 (A)



県内の分布

ビロードキンクロ

Melanitta fusca（Linnaeus）

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　県内では渡来地が減少し、近年の個体数が減少している。

形　　態　全長55cm、オスは全身黒色で目の下に白い三日月斑がある。クチバシと足は朱色でよく目立つ。メスは全身黒褐色で目先とホオに白斑がある。

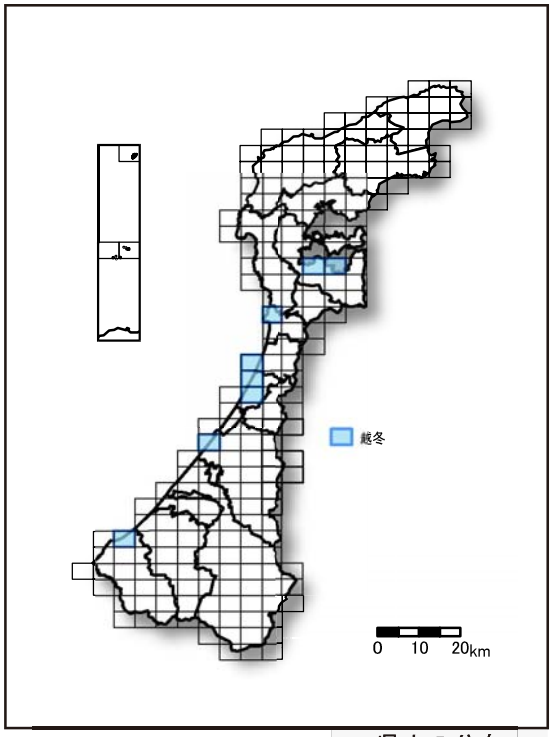
国内分布　冬鳥として北海道から東北、北陸にかけての沿岸、海上に渡来する。

県内分布　冬鳥として県内の沿岸に渡来するが、能登外浦での観察例は少ない。

生　　態　沿岸や海上に生息し、潜水して貝類などを採る。

生息地の条件　貝類など豊富な底生生物のすむ海。

生存の危機　重油流出などの海洋汚染や定置網などの混獲が予想されるが、実態はよくわかっていない。（A, D）



県内の分布

ウミアイサ

Mergus serrator Linnaeus

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　個体数が少なく、落ち着いて生息できる環境が少なくなっている。

形　　態　全長48～66cm。雄の冬羽は光沢のある緑黒色。首に太い白帯があって、次に黒斑の混じった褐色帯がある。それ以下の下面は白色で、脇は細かい白黒の波斑。背は黒色で、翼は大部分が白色。嘴、足、虹彩が赤色。雌の頭部は褐色で、他は灰褐色。雄のエクリプス羽は雌に似るが、虹彩の赤みが強い。

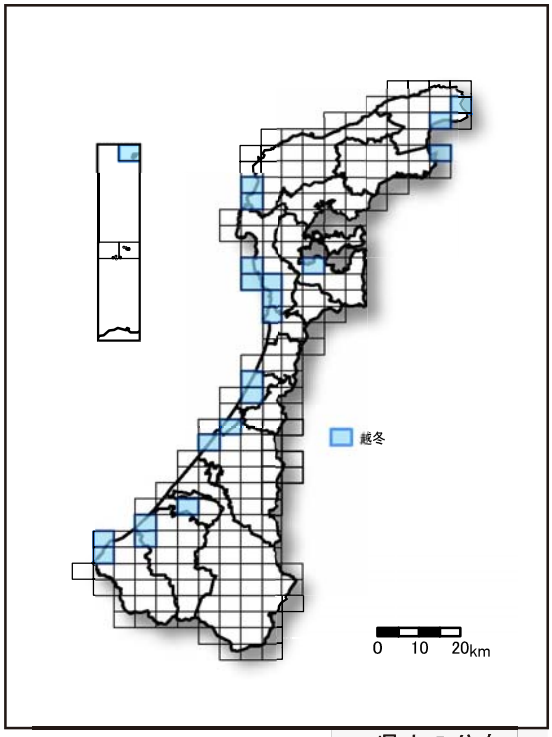
国内分布　冬鳥として全国的に渡来するが、個体数は少ない。

県内分布　羽咋市、志賀町、輪島市などの海岸に少数が渡来する。他の地域では観察例も少ない。

生　　態　越冬中は沿岸や入り江で見られるが、沿岸の湖や池に飛来することもある。単独から小群でいることが多いが、大きな群で過ごすこともある。昼間によく潜って採食する。きわめて魚食性の強いカモである。

生息地の条件　人が近づかない沿岸や湾の入り口などで、魚など餌が豊富な場所。

生存の危機　比較的警戒心が強いので、人の影響、特にハンターによる間接的な影響が大きい。 (A)



県内の分布

カワアイサ

Mergus merganser Linnaeus

カモ目カモ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　近年、個体数が減少しており、落ち着いて生息できる環境が減少している。

形　　態　全長51～68cm。大型のカモで、雄の冬羽は頭が緑光沢の黒色。上頸以下はピンクがかった白色で、背は黒色。嘴と足は赤色。雌はウミアイサの雌に似る。雄のエクリプス羽は雌に似る。

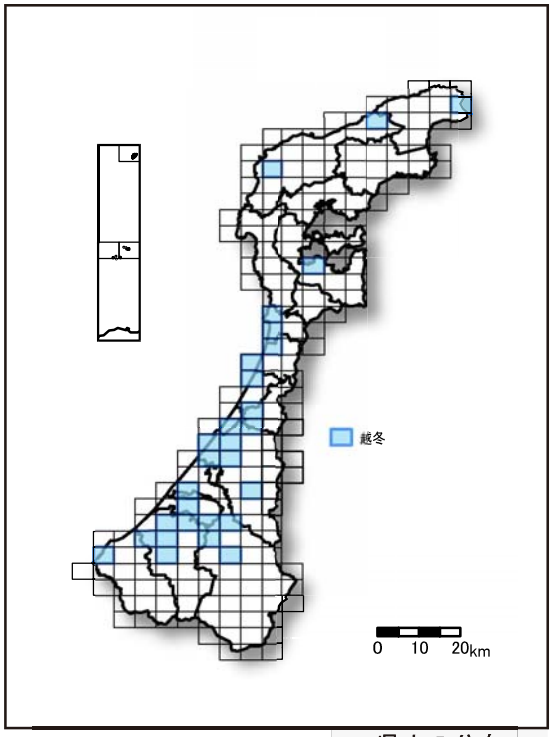
国内分布　冬鳥として渡来し、北日本に多い。少数が北海道で繁殖する。

県内分布　冬鳥として渡来し、主に河北潟などで見られるが、犀川や手取川の中流域などでも少数が越冬する。近年渡来数が減少し、1980年代に比べ、渡来数は半分以下となっている。

生　　態　越冬中は内陸の大きな湖沼や内湾などで過ごす。数羽から100羽位の様々な群となる。活動的で、頭だけを水中に入れて魚を探しながら泳ぎ、潜って採食する。繁殖期は森林内の湖沼、河川、池などにすみ、樹洞を使って繁殖する。主食は魚類で、甲殻類や水生昆虫も食べる。

生息地の条件　大きな魚が豊富に生息し、あまり人が近づかないような河川、湖沼の存在。

生存の危機　環境の悪化などにより餌となる河川の魚が減少。（A）



県内の分布

ミサゴ

Pandion haliaetus (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由　沿岸、河川、湖沼などの水界生態系の頂点に位置するタカで、水質汚染などによる影響を受けやすい。

形　　態　全長約60cm。翼開長約1.6m。雄よりも雌が大きい。トビよりも少し大きいタカで、翼は細長く尾は短い。体の上面は褐色で頭から下面は白く、めだつ黒い過眼線と胸には褐色の斑がある。

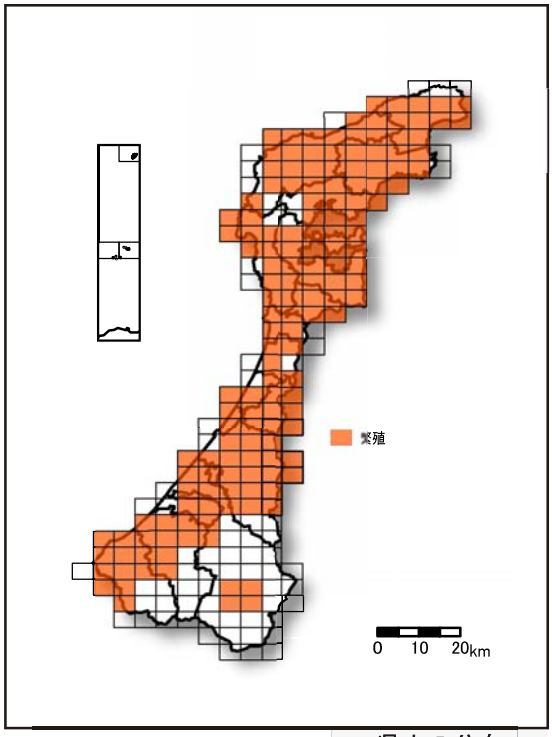
国内分布　北海道から沖縄まで広く全国に分布し、北九州以北で繁殖している。北日本のものは秋期に南に移動し、暖地で越冬する。

県内分布　柴山潟、木場潟、河北潟、邑知潟、七尾西湾などの海岸や湖沼で周年姿が見られ、県下全域の山地で繁殖が確認されている。冬期には冬鳥として渡来するものがあるらしく、個体数が増え、県内の水辺で普通に観察される。

生　　態　海岸の断崖や海岸に近い尾根上の大木などで営巣するが、県内で確認されているのは主に後者である。産卵は5月頃で、一腹卵数は普通3個、抱卵日数は約35日、孵化後約50日で巣立ちする。空中に停空飛翔してから急降下して水につっこみ、足指の爪で魚を捕らえて餌にする。

生息地の条件　餌となる魚類が豊富に生息し、汚染されていない水辺が餌場として存在すること。さらに、餌場から遠くない山地の尾根上に、外敵（特に人間）が近づけない営巣に適した大木があること。

生存の危機　かつては農薬の影響を強く受けていたと思われるが、現在は山地の森林伐採や、海岸営巣地への釣り人の侵入などの影響が考えられる。（A）



県内の分布

ハチクマ

Pernis apivorus (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由　個体数が少なく、人間の生活圏に近い所に生息するため、開発等により生存がおびやかされやすい。

形　態　全長約60cm。翼開長約1.3m。雄よりも雌が大きい。トビよりもやや小さいタカで、色彩は個体変異が大きい。頭上から後頭、背、腰、尾は褐色で、尾には数本の黒帯がある。顔は青灰色、淡褐色、褐色などいろいろで、胸から腹は淡褐色などの地に黒い縦斑があり、胸と喉の境に黒く太い斑紋がある個体が多い。翼の上面は褐色で下面は淡色の地に黒い横斑がある。

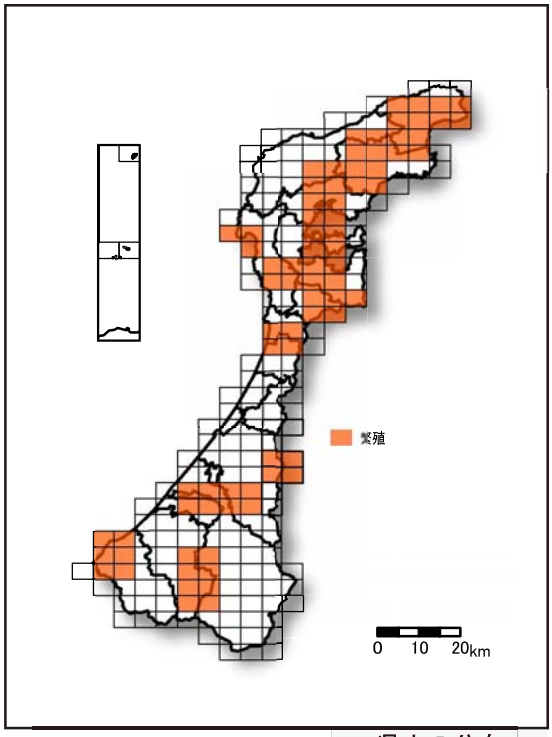
国内分布　夏鳥として渡来し、北海道、本州、佐渡で繁殖する。四国、九州、沖縄では渡りの際に通過するが、繁殖はしていない。

県内分布　1991年に加賀と能登で初めて繁殖が確認されている。春期の5月中旬頃と秋期の9月から10月上旬にかけて、渡り途中の個体が県内各地で観察される。特に秋期は能美市観音山や加賀市刈安山などで南に渡る個体が多い日には数十羽確認できる。

生　態　加賀や能登の山地のスギ、アカマツ、モミなどの針葉樹やコナラなどの落葉広葉樹に営巣し、同じ巣を連続して使うことが多い。産卵期は5月下旬から6月下旬で、一腹卵数は1～3個、抱卵日数は35日前後、孵化後約40日で巣立ちする。両生類、爬虫類のほかハチ類の幼虫や蛹を好んで餌にする。

生息地の条件　餌となる両生爬虫類やハチ類が豊富に生息し、営巣に適した大木がある山地に生息する。人間活動による悪影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが生息地の条件となる。

生存の危機　里山に住むため、開発など人為的影響を受けやすい。（A）



県内の分布

ハイタカ

Accipiter nisus (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー	情報不足
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由　小型鳥類の捕食者として森林生態系の頂点に位置するタカで、県内では山地帯の森林に少数が繁殖するのみであるため。

形　態　全長約35cm。翼開長約70cm。雄よりも雌が大きい。ハトぐらいの大きさのタカで、短い翼と長い尾をもつ。成鳥雄は、上面は暗青灰色で尾には数本の黒色横帯があり、下面は白地に赤褐色の細い横斑がある。成鳥雌は、上面と下面の横斑が雄より褐色味がある。雌雄とも白い眉斑をもつ。幼鳥は全体的に褐色味が強い。

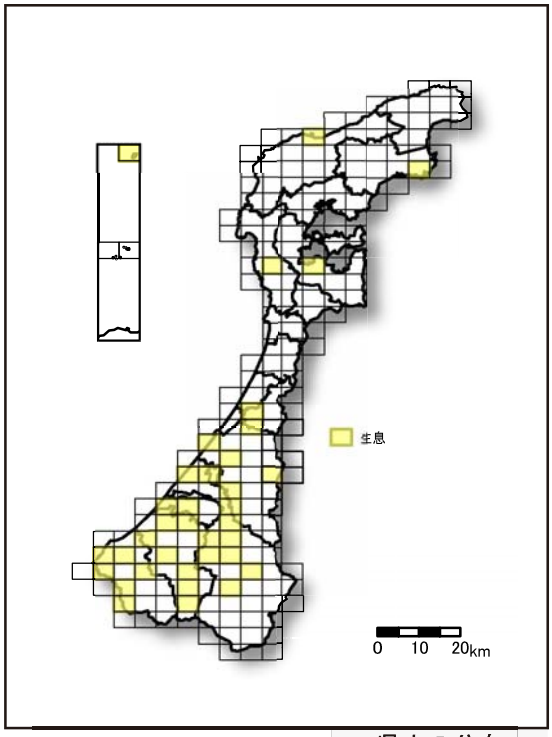
国内分布　北海道と本州で繁殖し、冬期は南日本でも見られる。

県内分布　山地帯の森林に少数が繁殖する。秋期の渡りの時期には、刈安山、観音山、医王山などの上空を、サシバやハチクマに混じって南に渡る個体が相当数確認されている。また冬期には低山、平野部でも観察される。

生　態　県内でも丘陵帯から山地帯にかけて局地的に繁殖している可能性がある。産卵期は本州では5月で、一腹卵数はふつう4～5個、抱卵日数は約33日、孵化後約30日で巣立ちする。秋期には南に渡る個体が観察される。小鳥類、リス、ネズミなどを主食にしている。

生息地の条件　本州中部では標高500mから1500mぐらいの山地が繁殖地である。県内での繁殖は確認されていないが局地的に繁殖している可能性がある。繁殖地の条件については不明である。

生存の危機　生息地が限定される上、繁殖数もごく少ないと思われる。（A）



県内の分布

ノスリ

Buteo buteo (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　かねてから繁殖の可能性が指摘されていたが、能登、加賀でそれぞれ繁殖が確認された。県内での繁殖個体は少なく、生息地も限定されるため。

形　態　全長約55cm。翼開長約130cm。雌は雄よりも少し大きい。翼は長くて幅が広く、尾は短めで、全体にずんぐりしており、トビよりも少し小さいタカである。頭部は淡褐色で暗褐色の過眼線と顎線が目立つ。体の上面は暗褐色で、胸から腹はクリーム白色で腹から脇にかけて暗褐色の斑が帯状になっている。尾は淡褐色で不明瞭な数本の暗色帯がある。

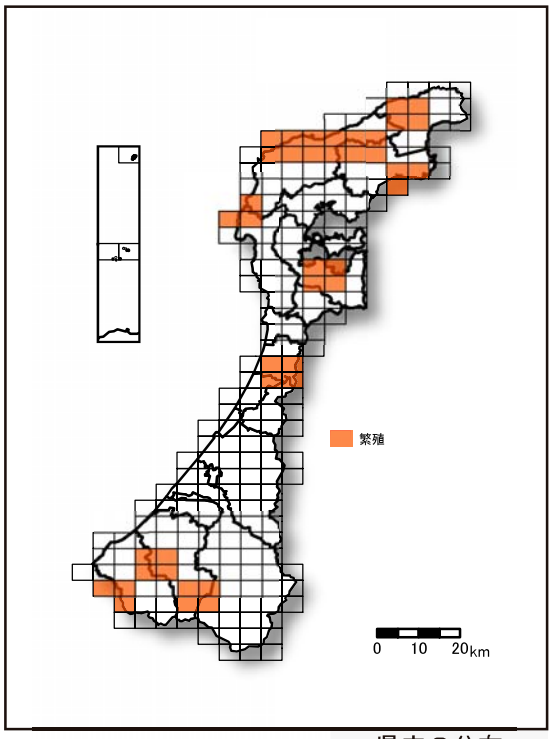
国内分布　北海道、本州、佐渡、四国などで繁殖し、九州、対馬でも繁殖期に観察されている。冬期は全国で見られ、琉球列島でも記録がある。

県内分布　2000年に能登町で繁殖が初めて確認され、その後も能登半島では10巣以上の繁殖が、また最近は加賀でも確認されている。冬鳥として平地から山地帯の開けた場所にふつうに渡来する。特に河北潟などで個体数が多い。

生　態　本州では、低山帯から亜高山帯の落葉広葉樹林や雑木林などで繁殖する。産卵期は多くの場合4月で、一腹卵数はふつう2～3個、抱卵日数は約30日、孵化後約40日で巣立ちする。日本では成鳥の留鳥性が強く、冬期も繁殖地周辺につがいで留まることが多いという。秋期には南に渡る個体も観察される。ネズミなどの小型哺乳類を主食にしている。

生息地の条件　本州での繁殖期における生息環境は、低山帯から亜高山帯の落葉広葉樹林、雑木林、アカマツ林、混交林などで、遠くないところに狩り場となる農耕地や草地のある林を好む。

生存の危機　越冬個体数は多いが、繁殖期の観察例は少ない。



県内の分布

ヤマドリ

Symaticus soemmerringil（Temminck）

キジ目キジ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由　県内に広く分布するが、近年減少しており、生息環境も悪化している。

形　　態　雄は全長125cm、雌で55cm。雄は尾羽が非常に長く、全身赤褐色で、頭、背など上面の色は濃い。顔は赤い皮膚が露出している。雌は全身褐色で尾羽は短い。

国内分布　本州、四国、九州の低山から山地の森林に留鳥として生息する。

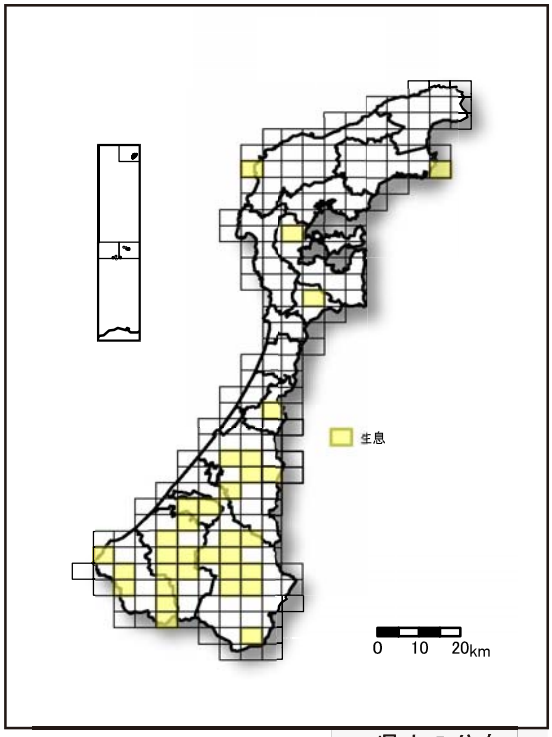
県内分布　県内の低山から山地の森林に留鳥として生息する。なお本県に分布するのは亜種キタヤマドリ*S.s.scintillans*である。

生　　態　森林にすみ、地上で草の芽や葉、種子や木の実、昆虫などを食べるが、近縁のキジよりは植物食性が強い。繁殖期の雄は翼でドラミングと呼ばれる大きな羽音を立て存在を誇示する。

生息地の条件　餌となる多様な植物が繁茂する森林。

生存の危機　雄に対する狩猟圧、森林伐採や植林による広葉樹林の減少、無秩序な放鳥による亜種交雑の危機などが挙げられる。（A, B, C）

特記事項　日本固有種。国カテゴリーは、亜種アカヤマドリ*S.s.soemmerrinil*　準絶滅危惧、亜種コシジロヤマドリ*S.s.ijimae*　準絶滅危惧。



県内の分布

イソシギ

Actitis hypoleucos (Linnaeus)

チドリ目シギ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由
河川敷や湖沼畔の草地で繁殖し、冬期もその周辺や海岸部でみられるが、近年個体数が減少している。

形　態
全長20cm。翼長10～12cm。体重34～76g。頭頂から体の上面は灰黒褐色で顔から胸は白地に灰褐色の縦斑がある。腹部は白く、肩部にも白色部がくいこむ。飛翔時には白い翼帯が顕著に出る。嘴は黒褐色で基部は淡くまっすぐ、脚は黄褐色である。

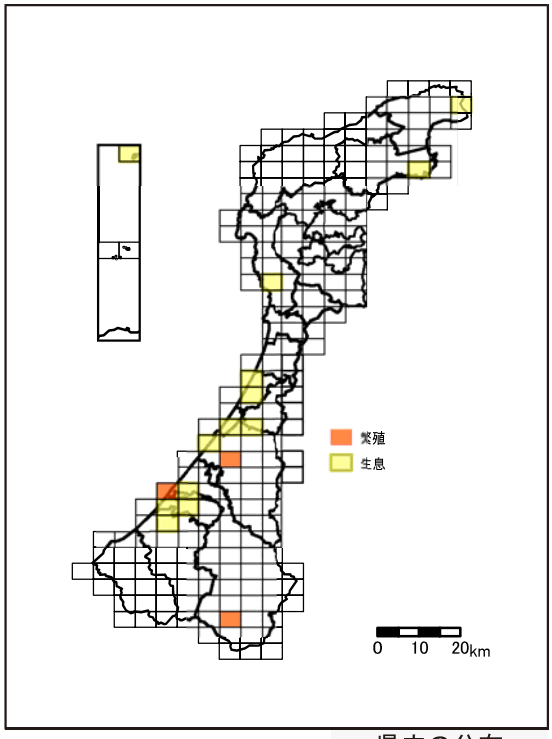
国内分布
北海道から南西諸島までみられるが、繁殖しているのは九州以北である。北日本では繁殖後暖地へ移動する。

県内分布
県内では留鳥。河川の中州や河川敷、湖沼畔の草地で繁殖している。渡りの時期や越冬期には、磯浜海岸、防波堤、砂浜海岸などにも出現する。

生　態
河川の中州や河川敷で4～7月に繁殖する。砂地を浅く掘って枯れ草などを集めた簡単な巣をつくり、3～4個の卵を産む。繁殖期初期には営巣地上空を鳴きながら飛び回る。抱卵期間は約23日で、孵化したヒナにはすでに綿毛がはえていて、親の保護のもと独力で採食し、25日ぐらいで独立する。餌は水生昆虫、カニ、ゴカイなどの小動物である。

生息地の条件
営巣場所は河川敷や湖沼畔の草地であるが、人間の活動圏に近い地上であるため、人間活動による悪影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが生息地の条件となる。

生存の危機
河川敷や中州に侵入してくる4輪駆動車、オートバイ、釣り人などにより繁殖がかく乱されやすい。
(A)



県内の分布

ヤマシギ

Scolopax rusticola Linnaeus

チドリ目シギ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由

県内の山地に生息するが個体数は少なく、繁殖している可能性もあるが確認された例はない。冬期の観察例も少ないにもかかわらず狩猟鳥であり、個体数の減少が危惧される。

形　　態

全長35cm。翼長18～22cm。体重200～446g。まっすぐで長い嘴をもった太った大きなシギ。背面はオリーブ色味のある褐色で、翼には大きな暗色斑が多数あり、背中には太い縦縞がある。腹側は白っぽく褐色の細い横縞が多数あり、胸にV字型の黒斑がある。頭頂はややとがり、黒い横縞がある。眼がかなり後方についていて両眼でいつも全方位が見える。

国内分布

北海道から本州中部にかけてと伊豆諸島などで繁殖記録があり、東北地方南部から四国、九州、沖縄にかけての各地で越冬する。

県内分布

舳倉島で巣と卵が見つかった例があるが、それ以外には繁殖の確認例はなく、ほとんどが冬期の記録である。大聖寺川下流、野田山、医王山などで記録がある。渡りの時期には海岸林や舳倉島でも観察される。

生　　態

繁殖期には広葉樹などの林にすみ、「キチッ、キチッ、ブーブー」と飛びながら鳴く。地上にくぼみをつくって4卵を産む。抱卵期間は約21日で、15～20日ぐらいで巣立つ。餌はミミズ、クモ類、昆虫類などの地上性の小動物で、たまに植物の茎や種子を食べる。

生息地の条件

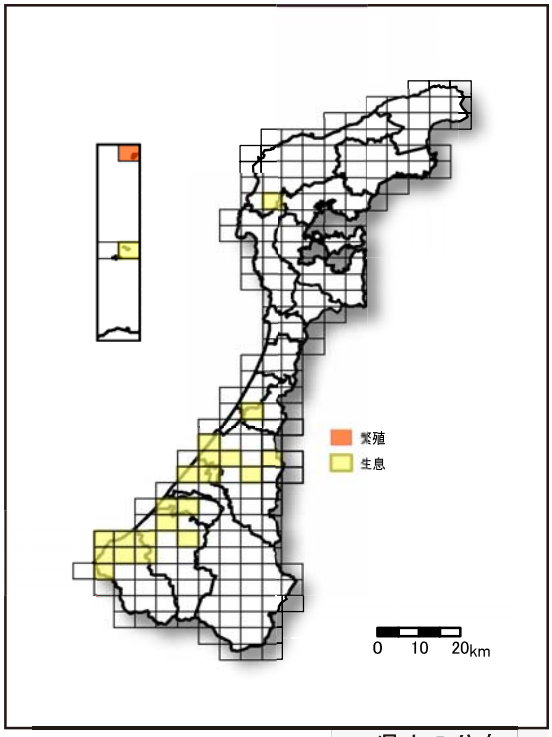
餌となる地上性小動物が豊富であること。営巣場所が地上であるため外敵の侵入が少ないこと。特に人間の活動圏に近い森林に繁殖するため、人間の踏み込みが少ない森林であること。

生存の危機

本県ではもともと生息数が少ない上に狩猟鳥に指定されている。 (A)

特記事項

狩猟鳥。



県内の分布

ウミスズメ

Synthliboramphus antiquus (Gmelin)

チドリ目ウミスズメ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	絶滅危惧ⅠA類

選定理由　かつては冬期沿岸海上に多数見られたが、近年減少が著しい。

形　　態　全長約25cm。小型の海鳥で、雌雄同色。頭部、上面は黒く、首、胸、下面は白。

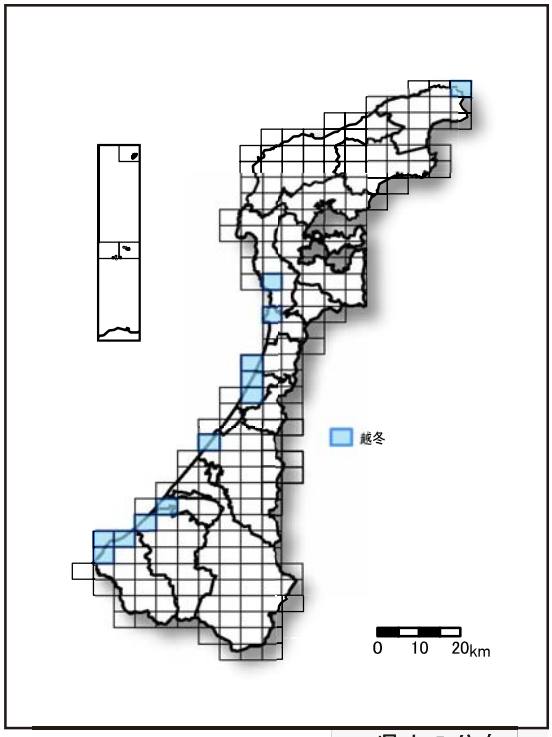
国内分布　北海道、東北地方の島嶼で少数の繁殖が知られる。冬期は北太平洋から渡来するものが多く、北海道、本州、九州北部沿岸で多数が越冬する。

県内分布　冬期、県内海上に広く分布する。ナホトカ号重油流出事故では加賀市から羽咋市までの海岸で回収されたものが多く、能登半島では少なかった。

生　　態　繁殖生態はカンムリウミスズメとほぼ同じ。冬期は海上で数羽から数十羽の群れで生活し、潜水して小魚などを追う。

生息地の条件　沿岸海上に越冬するが、内湾ではほとんど見られない。

生存の危機　定置網、刺し網など漁業による混獲。重油流出などによる海洋汚染。(A)



県内の分布

コノハズク

Otus scops Temminck & Schlegel

フクロウ目フクロウ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　ブナ林など発達した森林を代表する小型猛禽類であり、近年減少している。

形　　態　全長約20cm。全身が褐色で濃い斑が散在している。眼の虹彩は黄色。頭部には小さな羽角がある。体色には灰色と赤褐色の2型がある。

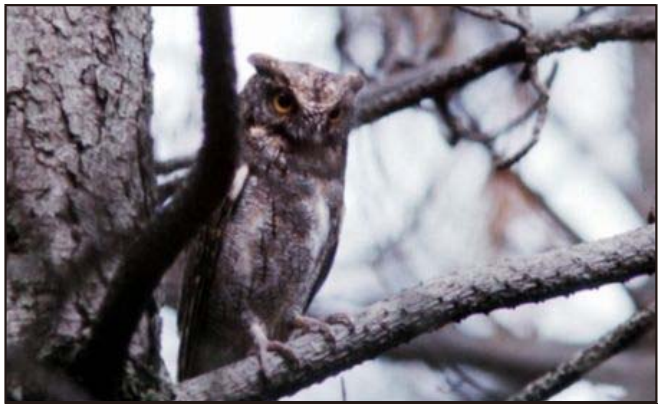
国内分布　九州以北に夏鳥として渡来し、本州では山地の森林、北海道では平地林にも繁殖する。

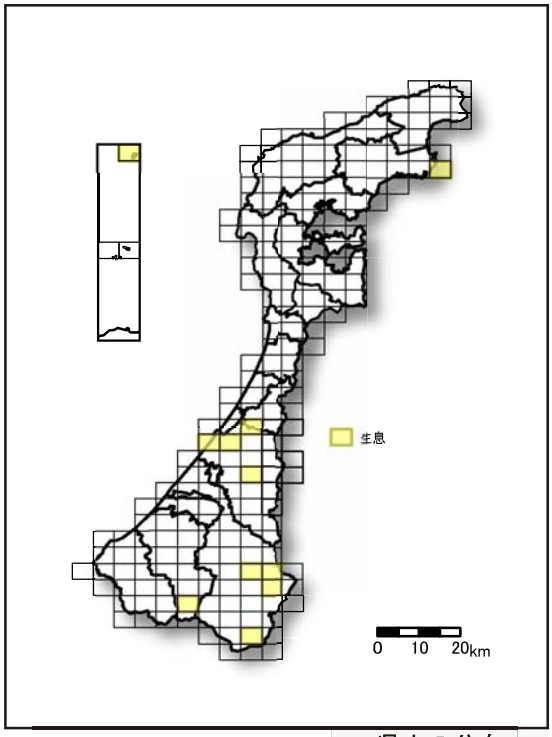
県内分布　夏鳥として、白山山系など山地帯のブナ林などに渡来し、繁殖する。春秋の渡りの時期には平地や市街地でも観察されることがある。

生　　態　夜行性で昆虫を主食とする。山地の大木の樹洞で繁殖し、5～6月頃に産卵する。抱卵期間は約25日、育雛期間は約21日。

生息地の条件　山地の発達した森林、営巣木となる樹洞のある大木の存在。

生存の危機　山地の森林伐採が心配されるが、詳しい原因はよく分からない。（A, D）





県内の分布

サンショウクイ

Pericrocotus divaricatus (Raffles)

スズメ目サンショウクイ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由　県内での生息数は少なくないが、国のRDBであることを考慮して選定。

形　　態　全長約20cm。雌雄ほぼ同色。雄では後頭部から首にかけて黒、額は白く、黒い過眼線がある。背中は青灰色。翼、尾は黒く下面は白い。雌では後頭部が灰色。

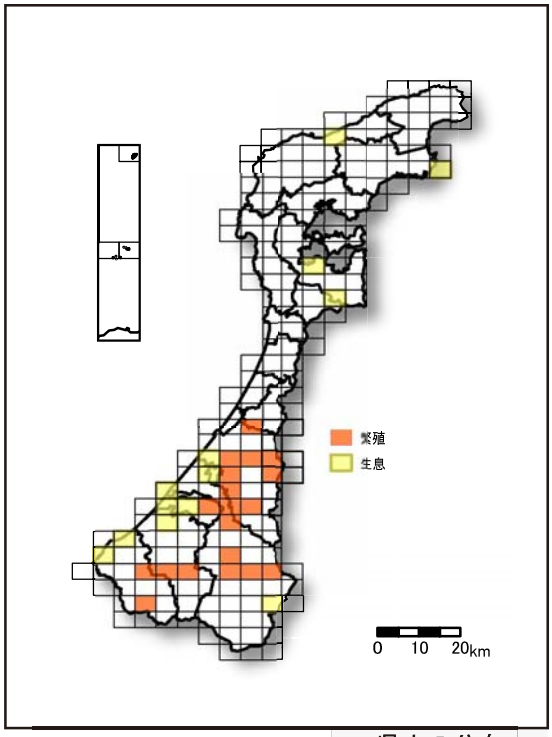
国内分布　夏鳥として本州以南の平地から低山帯の広葉樹に渡来する。関東周辺ではかって平地林に普通であったが、しだいに山地に後退し、近年は山地からも姿を消しつつある。

県内分布　夏鳥として低山から山地の広葉樹に渡来する。県内での生息数は少なくなく、全国的にいわれるほどの減少は見られない。

生　　態　樹上性で、主食は昆虫。繁殖期は5～7月で、抱卵期間は17～18日。秋の渡りの時には数十羽の群をつくることもある。

生息地の条件　まとまった落葉広葉樹林の存在。

生存の危機　生息する落葉広葉樹林の伐採、針葉樹への転換など。また越冬地での環境悪化、乱獲などが懸念されている。（A）



県内の分布

サンコウチョウ

Terpsiphone atrocaudata (Eyton)

スズメ目カササギヒタキ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　県内での生息数は少なくないが、近年全国的に減少している。

形　　態　全長雄45cm、雌18cm。雄の尾羽は著しく長い。頭部から胸にかけては紫光沢のある黒色。背、翼、尾は褐色。下面は白い。雄の嘴と目の周囲はコバルトブルー、雌では淡い青。

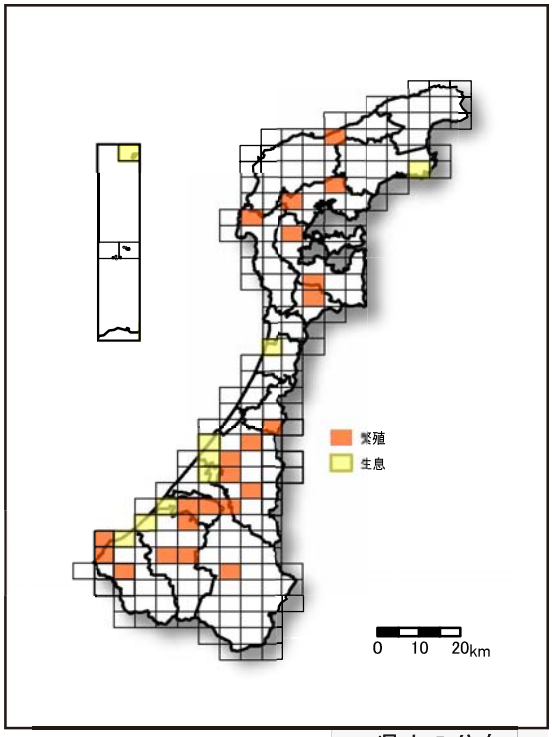
国内分布　夏鳥として本州以南に渡来する。平地から低山帯の広葉樹林やスギ、ヒノキの植林地を好む。近年全国的に減少しているが、県内では少なくない。

県内分布　県内の低山から山地帯の森林に生息する。20年ほど前までは各地のスギ、ヒノキの植林地に多数見られたが、現在は減少している。

生　　態　主食は昆虫。繁殖期は6～7月。地上1.5～5mの樹上にコップ状の巣を作り、3～5卵を産む。抱卵期間は約2週間。

生息地の条件　県内では暗いスギ、ヒノキの植林地に生息しているが、詳細はよくわかっていない。

生存の危機　越冬地である東南アジア諸国の森林伐採を指摘する研究もあるが、詳細はよくわかっていない。　(A)



県内の分布

コシアカツバメ

Hirundo daurica Linnaeus

スズメ目ツバメ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　能登地方を中心に生息しているが、近年の個体数の減少が著しい。

形　　態　全長19㎝、雌雄同色で、ツバメより大きい。頭、背など上面は黒色で赤褐色の腰が特徴。胸、腹など下面は淡褐色で、細かい従斑がある。

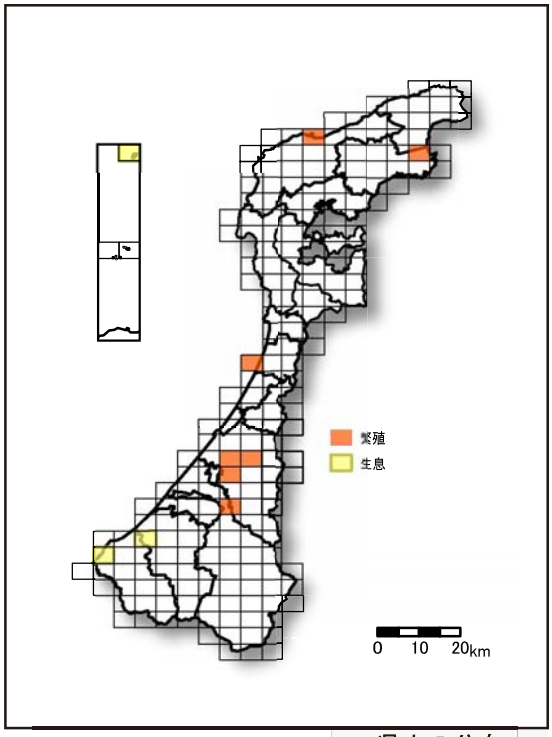
国内分布　夏鳥として九州以北に渡来するが、ツバメより数は少ない。かつては西日本中心の分布だったが、近年分布域は北上し、東北、北海道でも繁殖を始めた。

県内分布　海岸よりの住宅地や山間のビルなどに繁殖し、能登地方を中心に局地的に分布する。

生　　態　ツバメの生態に似るが、ツバメほど群れる事はなく大きな群れは作らない。とっくり型の特徴的な形の巣を作り、一般家屋よりもビルや橋などコンクリート製建造物を好む。

生息地の条件　海岸よりの市街地で見ることが多いが、必ずしもそれが条件ではなく、詳しくはよくわかっていない。

生存の危機　近年減少が著しいが、減少の原因はよくわかっていない。（A, D）



県内の分布

セッカ

Cisticola juncidis (Rafinesque)

スズメ目ウグイス科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	なし

選定理由　県内では分布が局地的であり、繁殖個体数も少ない。

形　　態　全長約12cm。全身茶褐色で胸、腹など下面は淡い。

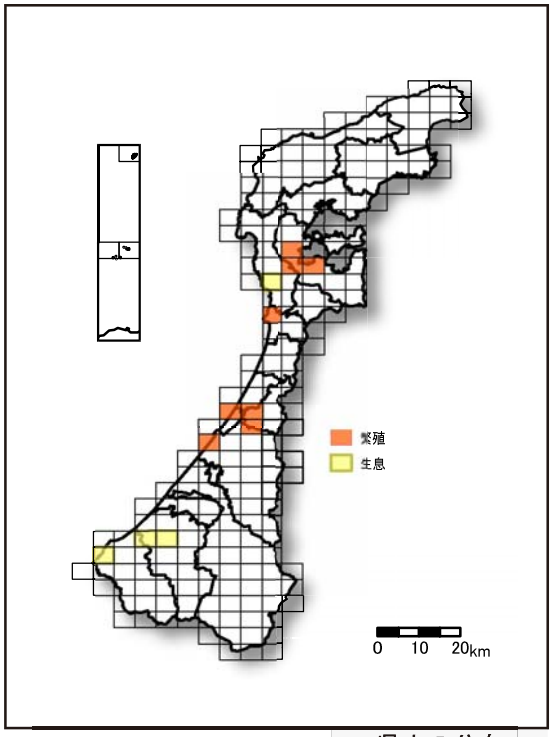
国内分布　夏鳥として本州以南の草原に渡来するが、特に西日本では多数生息する。沖縄では留鳥。

県内分布　夏鳥として渡来し、柴山潟、河北潟、羽咋市などの湿地、休耕田で少数が生息する。かつては多数の生息が知られていたが、徐々に減少した。

生　　態　繁殖期は4～9月、抱卵期間、育雛期間とも約2週間。一夫多妻で知られる。

生息地の条件　イネ科植物の多生する草原。

生存の危機　水田周辺の草地や休耕田に依存しており、耕作環境の変化に大きな影響を受ける。（A, C）



県内の分布

ノジコ

Emberiza sulphurata Temminck & Schlegel

スズメ目ホオジロ科

石川県カテゴリー	準絶滅危惧
国カテゴリー	準絶滅危惧

選定理由　繁殖分布は日本に限られ、国内でも分布は局地的で個体数が少ない。

形　　態　全長約14cm。全身黄色っぽい緑色。胸、腹など下面は淡い。雄の頭部は黒っぽく、目の回りに白い輪がある。

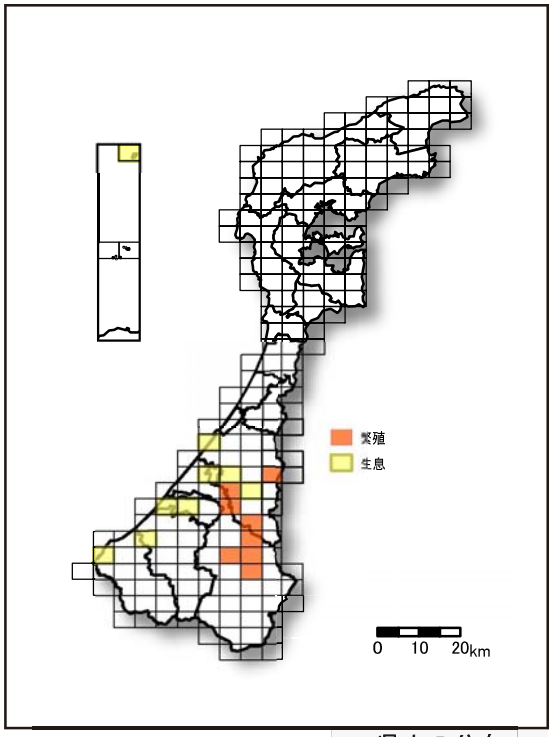
国内分布　夏鳥として渡来し、本州中部から青森県にかけて分布する。低山から山地の明るい広葉樹林や灌木のある草原に繁殖する。

県内分布　医王山、白山山系、大日山系の落葉広葉樹林や渓流沿いの疎林に見られるが、分布は局地的である。

生　　態　繁殖期は5～7月、低木の茂みや地上に営巣し3～5卵を産む。抱卵期間は約2週間、育雛期間は7、8日。主食は草の種子などだが、昆虫も捕る。

生息地の条件　湿地を含む落葉広葉樹や渓流沿いのハンノキ、クルミなどの疎林に生息するが、詳細はよくわかっていない。

生存の危機　森林の伐採、渓流の砂防工事。越冬地での密猟（飼育用、食用）など。（A）



県内の分布

オオジシギ

Gallinago hardwickii (Grey)

チドリ目シギ科

石川県カテゴリー	情報不足
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

過去には小松空港や金沢市大浜埋め立て地で繁殖したとされている。近年穴水町や内浦町の牧草地帯でディスプレイフライトが観察されており、繁殖の可能性がある。情報収集が必要である。

形　　態

全長30cm。翼長14～17cm。体重110～230g。嘴はまっすぐで長く、黄褐色で先端は黒い。頭央線、眉斑、顔、喉はクリーム色で、頭側線，過眼線，目の下の線は黒い。背と肩羽は黒褐色と赤褐色の斑で、外縁のクリーム色が連なり、縦線となる。頸、胸は淡黄褐色で黒褐色の縦斑があり、胸から脇には黒褐色の横斑がある。腹は白い。尾は黒褐色で先端近くに橙黄色の帯がある。

国内分布

本州中部の高原や東北、北海道の草原で繁殖し、渡りの時期には全国でみられる。広島など中国山地での繁殖例もある。サハリン南部でも繁殖するが、ほぼ日本特産種といえる。

県内分布

旅鳥として渡りの時期には県内各地の水田や湿地でみられる。過去には小松空港や金沢市大浜埋立地で繁殖したとされているが、その後環境の変化で消滅してしまった。近年能登の穴水町、能登町などの牧草地でディスプレイが観察されており、繁殖の可能性がある。

生　　態

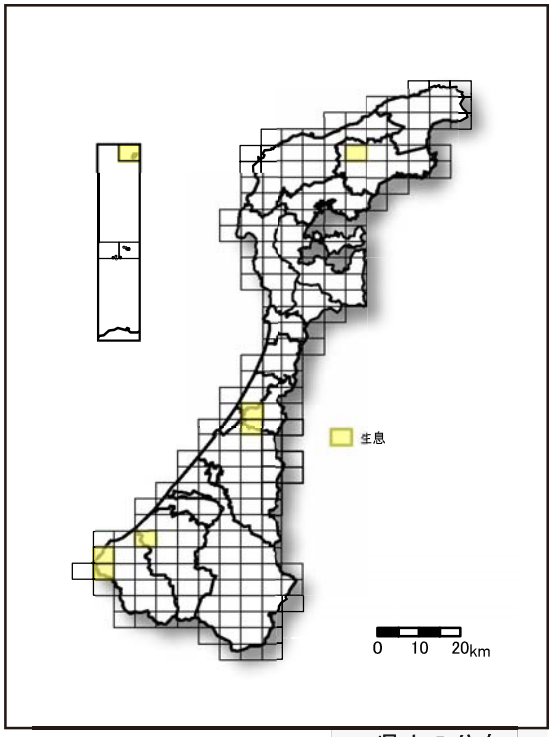
繁殖地では草原の地上に皿形の巣をつくり、ふつう4卵を産む。産卵期は5月上旬から6月上旬で、雌のみが抱卵する。雄は繁殖地上空を「ズビーヤク」と鳴きながら飛び回り急降下するときに「ザザザザ」と大きな音を尾から発するディスプレイフライトを夜明けと日没前後を中心に行う。餌はミミズ、昆虫類などの小動物で、植物の種子も食べる。

生息地の条件

人のあまり入らない湿原や低木のまじった草原、牧場、農耕地などの開けた環境で繁殖する。本州では高原や山地など標高の高い地域に生息するといわれてきたが、近年標高の低いところでの繁殖も確認され、必ずしも標高とは関係せず、むしろ植生などの環境に左右されることがわかってきている。

生存の危機

渡りの時期にみられるが個体数は少なく、全国的にも減少傾向である。中国山地の例のように本県でも繁殖の可能性があり、早急な調査をし、繁殖地が確認されればその地域を保護していく必要がある。(A, B)



県内の分布

鳥類

マダラウミスズメ

Brachyramphus marmoratus (Pallas)

チドリ目ウミスズメ科

石川県カテゴリー	情報不足
国カテゴリー	情報不足

選定理由　かつては冬期沿岸海上に見られたが、近年減少が著しい。

形　　態　全長24cm、雌雄同色。東部、背など体の上面は黒色、ノド、胸、腹は白色。クチバシは他のウミスズメ類より細く長めである。

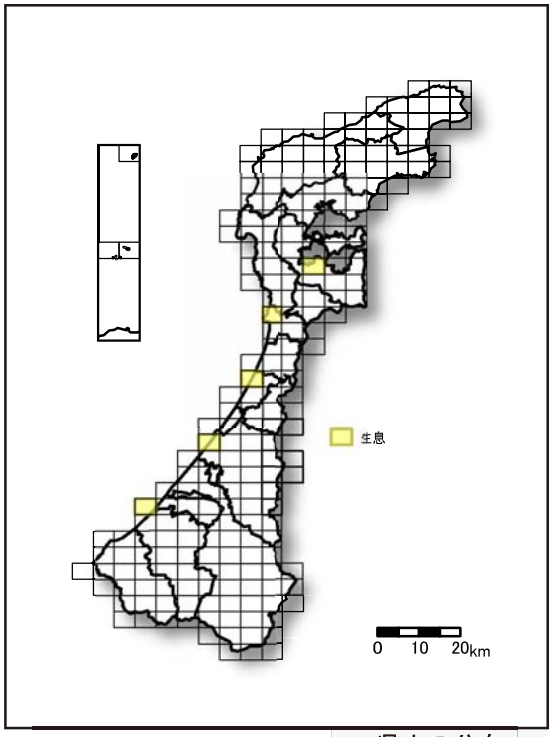
国内分布　冬鳥として北海道、東北、北陸の沿岸、沖合に渡来する。北海道東部やオホーツク海沿岸では夏期に幼鳥が観察されており、繁殖が予想されている。

県内分布　冬鳥として加賀地方の海岸を中心に小数が渡来するが、能登での観察例は少ない。

生　　態　沿岸、海上に生息し、潜水して小魚などを捕る。

生息地の条件　沿岸海上に越冬するが、内湾ではほとんど見られない。

生存の危機　刺し網など漁業による混獲。重油流出などによる海洋汚染が考えられるが、観察例の少ない海上の鳥であり、実態はよく分っていない。（A）



県内の分布

オオコノハズク

Otus lempiji (Horsfield)

フクロウ目フクロウ科

石川県カテゴリー	情報不足
国カテゴリー	なし

選定理由　山地帯、低山帯に棲む小型猛禽類で、小鳥などを捕食し生態系上位をしめる。県内では過去繁殖報告があるが実態はよく分かっていない。

形　　態　全長約20～25cm。全身ほぼ褐色で、黒い縦斑と横斑がある。頭部には大きな羽角がある。眼の虹彩はオレンジ色。

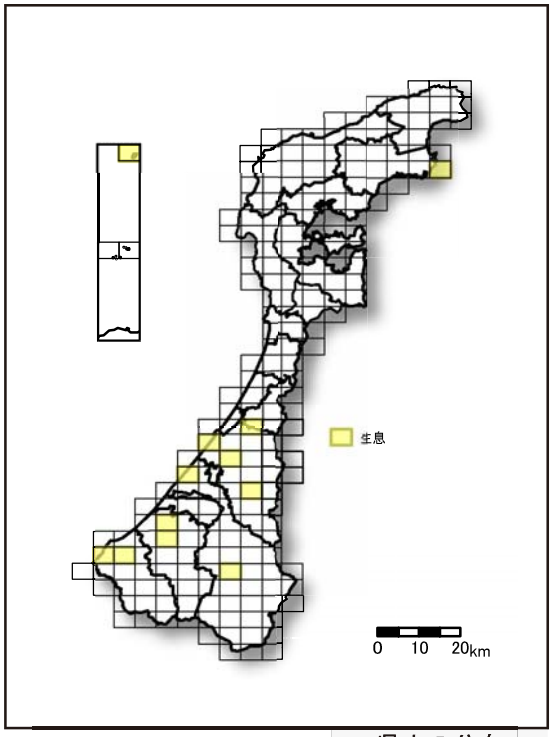
国内分布　留鳥として九州以北の山地帯から低山帯の森林、時には平地林にも生息するが、北海道、東北のものは冬期南下する。

県内分布　白山ろくで繁殖の記録があるが、県内の生息状況はよくわかっていない。現在は夏鳥とされているが、留鳥の可能性も残されている。春秋の渡りの時期には平地や市街地でも見られることがある。

生　　態　夜行性で小鳥類、両生類、ハ虫類、小哺乳類などを捕る。5～6月に大木の樹洞に営巣し、4～5卵を産む。

生息地の条件　営巣木となる樹洞のある大木、餌動物の豊富な森林の存在。

生存の危機　森林開発による営巣木の減少が考えられるが、実態はよく分かっていない。（A, D）



県内の分布

ハリオアマツバメ

Hirundapus caudacutus (Latham)

アマツバメ目アマツバメ科

石川県カテゴリー	情報不足
国カテゴリー	なし

選定理由　繁殖期に白山ろくで観察され繁殖が予想されるが、詳細はわからず、情報収集が必要である。

形　　態　全長21㎝、雌雄同色。全身ほぼ黒褐色だが、額、喉、下尾筒が白い。

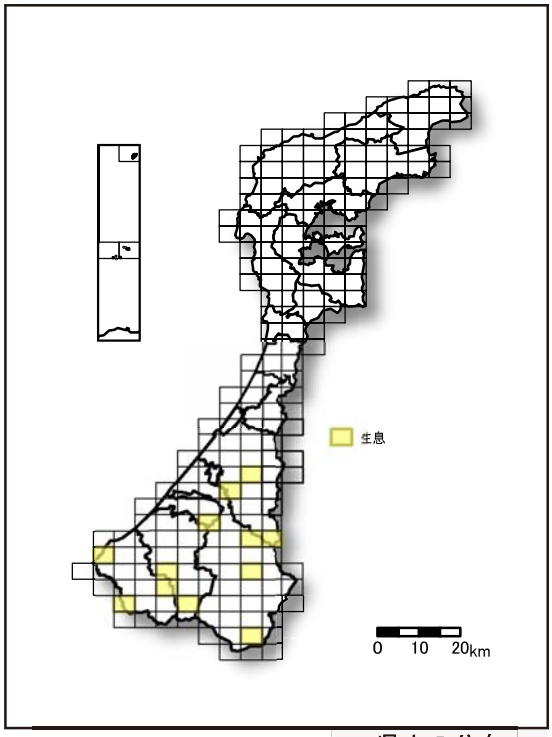
国内分布　夏鳥として本州中部以北に渡来し、本州では山地で、北海道では平地でも見られる。春夏の渡りの時期には本州以南の平地でも見ることができる。

県内分布　従来、春秋の渡りの時期にのみの記録だったため旅鳥とされていたが、近年白山ろくなどで繁殖期も観察されるようになり、繁殖の可能性が出てきた。

生　　態　繁殖期以外は常に空中生活を送り、地上はもちろん樹木に止まる事さえ、ほとんどないと言われている。繁殖期は大きな木の樹洞内で営巣する。

生息地の条件　営巣木となる大木の存在。

生存の危機　実態はよく分かっていない。 (D)



県内の分布

キバシリ

Certhia familiaris Linnaeus

スズメ目キバシリ科

石川県カテゴリー	情報不足
国カテゴリー	なし

選定理由　白山山系の森林のみに生息する種類で個体数も少ないと考えられるが、実態はよく分かっていない。

形　　態　全長約14cm。上面は褐色で白と黒の縦斑があり、下面は白。嘴は細長く、下に湾曲している。

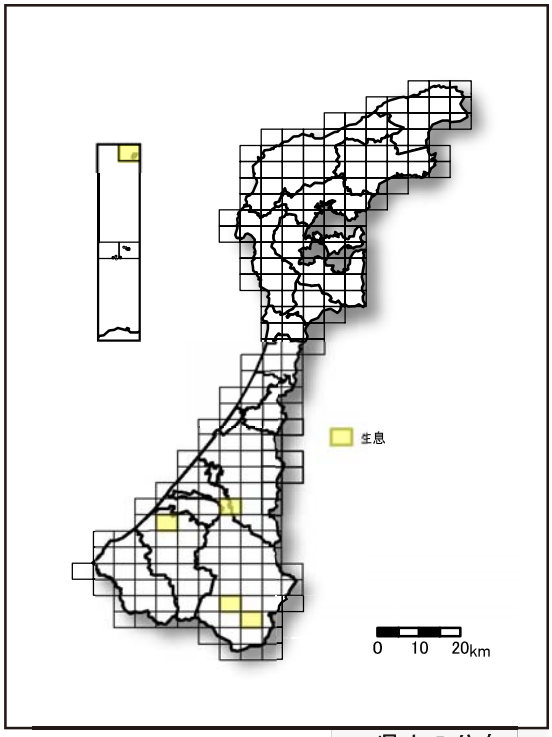
国内分布　留鳥として本州、四国では低山から亜高山までの森林に、北海道では平地でも見られる。

県内分布　白山山系のブナ林に生息している。この他、輪島市沖の舳倉島、七ツ島では渡り途中と思われる個体が観察されている。

生　　態　主食は昆虫やその卵。木をらせん状に上りながら採食し、地上に降りることはない。繁殖期は4～5月といわれ、抱卵期間，育雛期間ともに約2週間。

生息地の条件　発達した森林。ブナ林やコメツガ、オオシラビソなどの針葉樹林。

生存の危機　生息数がごく少ないと考えられるが、実態はよく分かっていない。（A，D）



県内の分布

オオミズナギドリ

Calonectris leucomelas (Temminck)

ミズナギドリ目ミズナギドリ科

石川県カテゴリー	地域個体群
国カテゴリー	なし

選定理由
石川県では唯一七ツ島でのみ繁殖しており、何らかの環境破壊が起これば繁殖個体群の絶滅の恐れがある。

形　態
全長48cm。翼開長約120cm。雌雄同色。頭部は白と黒褐色斑があり、背と翼上面、尾は黒褐色で、首から下尾筒と翼下面は白色。翼下面の翼角と中央部に黒い条斑がある。足は肉色で、嘴は淡青みがかる。

国内分布
日本近海の島々で繁殖する。日本での主な繁殖島は、岩手県三貫島、伊豆七島御蔵島、京都冠島、沓島、福岡県沖ノ島など。現在判明している南限繁殖地は西表島南西の仲御神島、北限繁殖地は北海道渡島とウラジオストク沖のカラムジン島。非繁殖期には南下し、マレーシア、ニューギニア沖からオーストラリア北部沖までの熱帯海域に生息する。

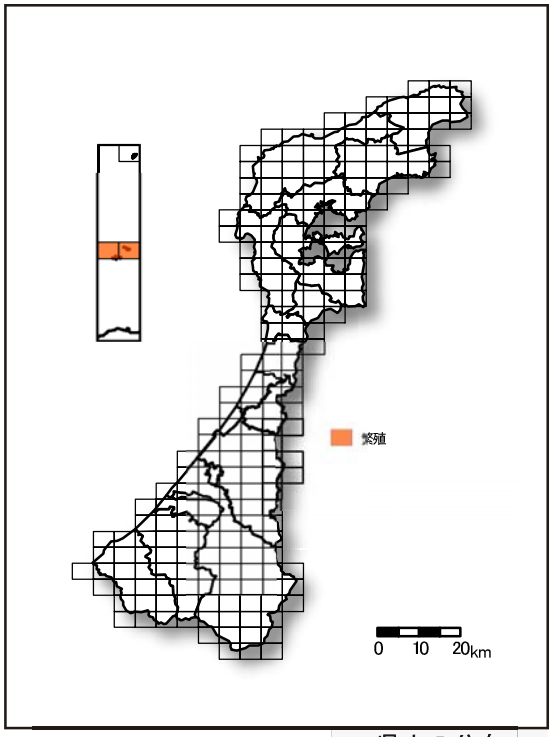
県内分布
夏鳥として渡来し、七ツ島の大島、荒三子島、御厨島で約4万羽が繁殖する。

生　態
海洋の表層で魚やイカなどを捕食し、離島で集団繁殖をする。一般に2～3月に帰島し5～6月産卵、10～11月に渡去する。コロニーでは地面に約1mの巣穴を掘りって、白色の1個の卵を産み、雌雄が交代で抱卵。交代や雛への給餌は日没後帰島しておこなう。

生息地の条件
繁殖地として人が入らない島嶼。島の土は巣穴が掘れるように柔らかく、また土が流されないように植物が生えていることが必要。まわりの海域は餌が豊富なこと。

生存の危機
アナウサギによる植生破壊と土壌流出による生息地の破壊、ドブネズミによる食害が心配される。また、密かに上陸する釣り人の影響も心配される。(A, C)

参考文献
石川県環境部 1986. 舳倉島・七ツ島の自然



県内の分布

ウミウ

Phalacrocorax capillatus (Temminck & Schlegel)

ペリカン目ウ科

石川県カテゴリー	地域個体群
国カテゴリー	なし

選定理由　石川県では唯一七ツ島の大島、烏帽子島で繁殖し、繁殖個体数も少ない。

形　態　全長84cm。カワウによく似るが、体の大部分を占める光沢ある黒色は緑がかっている。繁殖期には雌雄ともに顔に白く細い羽毛を生じ、足の付け根に白色斑を生じる。幼鳥は褐色で下面は淡く、若鳥も褐色味が強く、下面も淡い傾向がある。長めの嘴の先端はかぎ状に曲がって鋭く、魚を捕らえるのに適している。

国内分布　北海道から本州中・北部の島や沿岸で繁殖する。日本海周辺部からオホーツク海、南シナ海まで分布する。国内の繁殖数は2,000～3,000つがい。

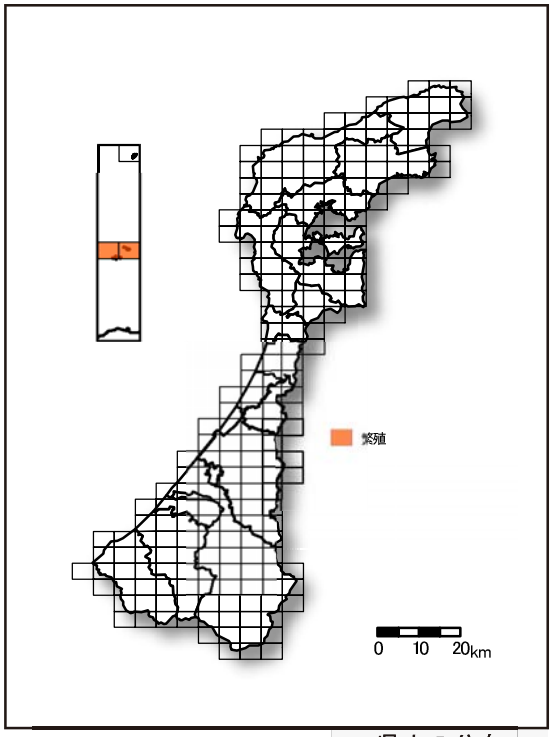
県内分布　繁殖は七ツ島の大島、烏帽子島のみであり、数十羽が繁殖していると思われる。冬期は県内各地の海岸に生息する。

生　態　荒海に面した岩石の多い海辺や、断崖の続く海岸などに好んで生息する。群れで生息することが多く、集団で塒をとり、また営巣する。断崖の岩棚などに枝や草で巣を作る。4～5月に産卵し、5月下旬から6月孵化し、巣立ちは7～8月である。

生息地の条件　繁殖地としてヒトが近づかない断崖の岩棚を必要とする。まわりの海域は餌が豊富なこと。

生存の危機　繁殖個体群は少なく、繁殖地も七ツ島のみである。何らかの環境破壊がおこれば繁殖個体群が消滅する恐れがある。（A）

ウミウの繁殖地



県内の分布

ミユビシギ

Crocethia alba (Pallas)

チドリ目シギ科

石川県カテゴリー	地域個体群
国カテゴリー	なし

選定理由
砂浜海岸に渡来する小型のシギで、高松から根上海岸では毎年約400羽が越冬する。これは全国の越冬数の4分の一を占め、地域個体群として貴重であるため。

形　　態
全長20cm。翼長12～13cm。体重36～84g。成鳥夏羽は頭から首、胸にかけて茶褐色で縞がある。腹は白く、背面は茶色で黒い斑がある。冬羽は茶色味がなくなり、上面は灰白色、下面は白色になる。飛翔時には白い翼帯が顕著に出る。嘴と足は黒色。

国内分布
北海道から南西諸島まで全国で渡りの時期にみられ、本州以南では越冬するものもいる。

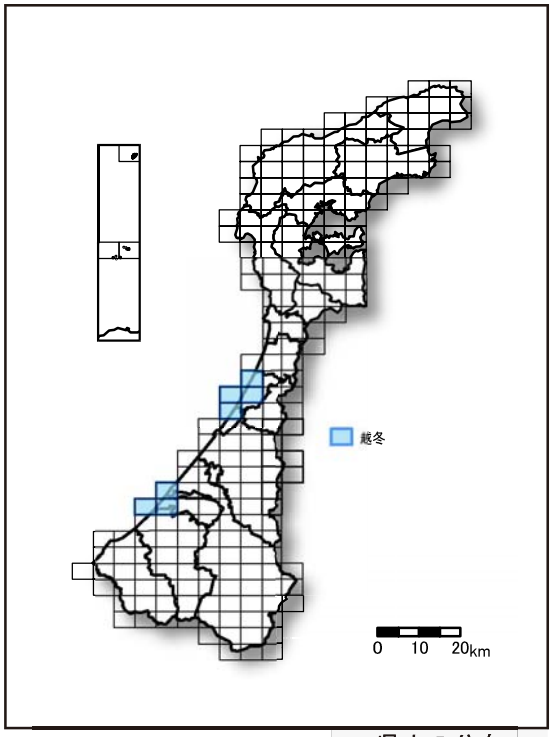
県内分布
春秋の渡りの時期には、七尾西湾や口能登から加賀にかけての海岸線の砂浜などでみられかほく市から能美市の海岸にかけては毎年400羽前後が越冬している。

生　　態
北極圏のツンドラの地上で6月中旬～7月中旬に営巣して繁殖する。中継地や越冬地では、海岸の砂浜に好んで生息し、波打ち際で波にあわせて走り、小さな甲殻類を主に食べる。本県の越冬個体群の主食はイシカワナミノリソコエビである。

生息地の条件
餌となる小型甲殻類の多い砂浜海岸に生息する。小型甲殻類の少ない砂浜にはいない。侵入する外敵（主に人間）が少ないことも生息地の条件となる。

生存の危機
海岸浸食による砂浜海岸の減少、消失。また海岸に侵入してくる4輪駆動車、釣り人などの影響で、越冬環境が落ち着かない。(A, D)

参考文献
中川律子 1997. 河北海岸の鳥類相の研究



県内の分布